

# 有価証券報告書

本書は、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した有価証券報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

株式会社オプトエレクトロニクス

(359237)

# 目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	8
第2 【事業の状況】	9
1 【業績等の概要】	9
2 【生産、受注及び販売の状況】	11
3 【対処すべき課題】	12
4 【事業等のリスク】	13
5 【経営上の重要な契約等】	15
6 【研究開発活動】	15
7 【財政状態及び経営成績の分析】	16
第3 【設備の状況】	18
1 【設備投資等の概要】	18
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	19
第4 【提出会社の状況】	20
1 【株式等の状況】	20
(1) 【株式の総数等】	20
【株式の総数】	20
【発行済株式】	20
(2) 【新株予約権等の状況】	20
(3) 【ライツプランの内容】	20
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	21
(5) 【所有者別状況】	21
(6) 【大株主の状況】	22
(7) 【議決権の状況】	23
【発行済株式】	23
【自己株式等】	23
(8) 【ストックオプション制度の内容】	23
2 【自己株式の取得等の状況】	24

【株式の種類等】	24
(1) 【株主総会決議による取得の状況】	24
(2) 【取締役会決議による取得の状況】	24
(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】	24
(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】	24
3 【配当政策】	24
4 【株価の推移】	24
(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】	24
(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】	24
5 【役員の状況】	25
6 【コーポレート・ガバナンスの状況】	26
第5 【経理の状況】	29
1 【連結財務諸表等】	30
(1) 【連結財務諸表】	30
【連結貸借対照表】	30
【連結損益計算書】	32
【連結株主資本等変動計算書】	33
【連結キャッシュ・フロー計算書】	35
【事業の種類別セグメント情報】	51
【所在地別セグメント情報】	51
【海外売上高】	52
【関連当事者との取引】	53
【連結附属明細表】	55
【社債明細表】	55
【借入金等明細表】	55
(2) 【その他】	55
2 【財務諸表等】	56
(1) 【財務諸表】	56
【貸借対照表】	56
【損益計算書】	59
【株主資本等変動計算書】	62
【附属明細表】	75
【有価証券明細表】	75
【有形固定資産等明細表】	75
【引当金明細表】	75
(2) 【主な資産及び負債の内容】	76
(3) 【その他】	80
第6 【提出会社の株式事務の概要】	81
第7 【提出会社の参考情報】	82

1 【提出会社の親会社等の情報】	82
2 【その他の参考情報】	82
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	83
監査報告書	巻末

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年2月21日
【事業年度】	第32期（自 平成18年12月1日 至 平成19年11月30日）
【会社名】	株式会社オプトエレクトロニクス
【英訳名】	OPTOELECTRONICS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 俵 政美
【本店の所在の場所】	埼玉県蕨市塚越5丁目5番3号
【電話番号】	(048)446-1181(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役会長 志村 則彰
【最寄りの連絡場所】	埼玉県蕨市塚越4丁目12番17号
【電話番号】	(048)446-1181(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役会長 志村 則彰
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町1丁目4番9号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第28期	第29期	第30期	第31期	第32期
決算年月	平成15年11月	平成16年11月	平成17年11月	平成18年11月	平成19年11月
売上高 (千円)	6,868,117	8,487,111	9,000,618	9,140,750	9,836,313
経常利益 (千円)	602,478	1,028,770	1,033,272	759,717	217,085
当期純利益 (千円)	320,907	710,225	663,106	146,411	29,689
純資産額 (千円)	2,121,520	3,940,850	4,756,079	5,180,892	5,398,501
総資産額 (千円)	8,078,072	11,020,081	11,419,501	13,689,157	16,919,493
1株当たり純資産額 (円)	509.67	810.37	910.60	984.40	1,025.75
1株当たり当期純利益金額 (円)	77.09	169.44	129.69	27.93	5.64
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	157.59	126.47	27.83	-
自己資本比率 (%)	26.3	35.8	41.6	37.8	31.9
自己資本利益率 (%)	16.3	23.4	15.3	3.0	0.6
株価収益率 (倍)	-	13.5	29.9	104.9	114.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	78,905	1,571,695	397,455	612,662	2,021,776
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,312,530	644,846	1,213,844	648,963	2,334,800
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	979,966	999,946	93,315	803,749	4,011,177
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,338,971	3,314,102	2,579,284	3,513,500	3,312,107
従業員数 (人)	251	244	267	297	306
(外、平均臨時雇用者数)	(30)	(16)	(23)	(34)	(35)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第28期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当社株式は非上場であり、かつ店頭登録もしていないため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。また第32期については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 第28期の株価収益率については、当社株式は非上場・非登録でありますので記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第28期	第29期	第30期	第31期	第32期
決算年月	平成15年11月	平成16年11月	平成17年11月	平成18年11月	平成19年11月
売上高 (千円)	4,913,467	6,217,941	5,996,055	6,263,658	6,606,727
経常利益又は経常損失 (千円)	3,771	135,968	103,064	83,533	441,550
当期純利益又は当期純損失 (千円)	2,094	51,380	81,041	389,057	449,041
資本金 (千円)	255,330	671,830	750,850	759,630	759,630
発行済株式総数 (株)	4,163,000	4,863,000	5,223,000	5,263,000	5,263,000
純資産額 (千円)	1,268,267	2,347,503	2,419,257	2,033,219	1,527,231
総資産額 (千円)	6,937,952	9,114,181	8,657,304	9,941,900	12,584,337
1株当たり純資産額 (円)	304.68	482.73	463.19	386.32	290.18
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	2.5 (-)	2.5 (-)	2.5 (-)	10 (-)	10 (-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	0.50	12.26	15.85	74.23	85.32
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	11.40	-	-	-
自己資本比率 (%)	18.3	25.8	27.9	20.5	12.1
自己資本利益率 (%)	0.2	2.8	-	-	-
株価収益率 (倍)	-	186.8	-	-	-
配当性向 (%)	500.0	20.4	-	-	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	162 (27)	165 (13)	183 (17)	194 (30)	207 (31)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第28期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、当社株式は非上場であり、かつ店頭登録もしていないため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。

3. 第30期及び第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。また第32期については、1株当たり当期純損失であり、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

4. 第28期の株価収益率については、当社株式は非上場・非登録でありますので記載しておりません。

5. 第30期、第31期及び第32期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向につきましては、当期純損失のため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和51年12月	オプトエレクトロニクス関係における出版、オプトエレクトロニクス関連技術、機器等の工業的普及活動等を目的として、資本金140万円をもって東京都港区浜松町に当社設立。
昭和56年 1月	本社を埼玉県川口市に移転。
昭和56年 2月	会社目的事項を「電子機器、電気機器及びコンピューター周辺機器の設計、開発、製造及び販売」に変更。
昭和58年 7月	レーザ方式バーコードスキャナを開発し、製造・販売を開始。
昭和59年 3月	米国ニューヨーク州に、Opticon, Inc. (現連結子会社) を設立。
昭和60年 2月	埼玉県蕨市に新社屋完成、本社を移転。
昭和60年 6月	CCD方式バーコードスキャナ(TS-1000シリーズ)を開発し、製造・販売を開始。
昭和61年 7月	北海道芦別市に芦別工場を新設。
平成元年11月	Opticon Sensors Europe B.V. (現連結子会社) の株式を取得。
平成 3年 1月	オーストラリア ニュー・サウス・ウェールズ州(シドニー市郊外)にOption Sensors Pty.Ltd. (現連結子会社) を設立。
平成 5年 3月	大阪市西区に大阪営業所を設置。
平成 5年 4月	製造部門を分離し、北海道芦別市に子会社(株)オプトを設立。 開発及び販売部門を分離し、埼玉県蕨市に子会社オプトジャパン(株)を設立。 大阪営業所をオプトジャパン(株)へ移管。
平成 5年 6月	(株)テスコに資本参加し、業務提携を開始。
平成 7年12月	当社を存続会社とし、(株)オプト(北海道芦別市)及びオプトジャパン(株)(埼玉県蕨市)の2社を吸収合併。
平成 8年 4月	Opticon Sensors Pty.Ltd.の株式を取得。
平成 8年11月	(株)テスコの株式を取得。
平成 9年 8月	ハンディターミナル(PhL-1600)を開発し、製造・販売を開始。
平成 9年12月	固定式CCDバーコードスキャナ(NFT-7175)を開発し、製造・販売を開始。
平成10年 1月	芦別工場がISO9002を取得(JQA-2108)。
平成11年 3月	レーザ方式バーコードスキャナ(OPL-6735)を開発し、製造・販売を開始。
平成11年 7月	五洋電子工業(株)(現(株)日立国際電気)で外注生産を開始。
平成13年 3月	埼玉県川口市に物流センターを開設。
平成13年10月	Opticon Sensors Pty.Ltd.の株式をOpticon Sensors Europe B.V.へ売却する。
平成13年12月	(株)テスコとの業務統合を実施。
平成14年 4月	超小型レーザモジュール(VLM-4100)を開発し、製造・販売を開始。
平成14年 8月	データコレクタ(OPL-9736)を開発し、製造・販売を開始。
平成15年 2月	(株)テスコから事業の営業権を譲渡され、(株)テスコは事業活動を休止。
平成15年 9月	埼玉県川口市に川口事業所を開設。
平成15年10月	(株)テスコは臨時取締役会にて解散決議をし、清算開始。
平成16年11月	(株)テスコの清算完了。
平成16年11月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成17年11月	新型モジュールエンジン7機種をラインアップ。
平成18年 4月	長野沖電気(株)で外注生産を開始。
平成18年11月	新製品15機種をラインアップ。
平成19年 4月	現在地埼玉県蕨市に新社屋完成、本社を新社屋に移転。旧本社を蕨事業所に変更。 物流センターを蕨事業所に移転。
平成19年 6月	長野沖電気(株)への外注生産委託を終了。

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び海外子会社9社で構成され、バーコードリーダ（ハンディスキャナ、フィクスマウント、データコレクタ、ハンディターミナル、モジュール）及びその他周辺機器の製造、販売、修理、サービスを主たる業務としております。（上記9社の他、平成20年2月現在、事業活動を休止している子会社が3社（Opticon SPRL、Bluestone B.V.、Opticon Sensors Benelux B.V.）あります。）

（海外子会社）

- 米州・・・Opticon, Inc.
- 欧州・・・Opticon Sensors Europe B.V.、Opticon S.A.S.、Opticon Ltd.、  
Opticon Sensoren GmbH、Opticon Sensors Nordic AB、Opticon S.R.L.、  
Opticon Sensores S.L.
- その他地域・・・Opticon Sensors Pty.Ltd.

レーザモジュールをコアとしたレーザ方式のバーコードリーダや、ペン方式、CCD方式のバーコードリーダ、CMOSセンサを使用した2次元スキャナ（以下「イメージスキャナ」。バーコード、2次元シンボル両方をスキャン可能）、RFID関連製品等の開発・製造は当社が行い、販売に関しては、国内マーケットは当社、海外マーケットについては、米国はOpticon, Inc.、日本・北米以外の全地域はOpticon Sensors Europe B.V.を中心として上記の残る7社が担当しております。

以下は当社グループの主な製品群です。製品別区分としては、ハンディスキャナとフィクスマウントを「スキャナ」区分とし、データコレクタとハンディターミナルを「ターミナル」区分とし、モジュールとその他製品を「モジュールその他」区分として表示しております。区分のポイントとして、データ読取装置を「スキャナ」とし、データ集積型装置を「ターミナル」として表示しております。「モジュールその他」には、スキャナやターミナルに組み込む読取モジュールと、サービス・修理など製品以外のものを含めております。

（スキャナ）

- ・ ハンディスキャナ.....バーコードや2次元シンボルにかざして使用する読取装置です。スーパーやコンビニエンスストアでの売上管理、工場や倉庫での入出庫管理、医療現場でのカルテ・検体の管理等に使用されております。バーコードリーダは読取方式によりペン方式、CCD方式、レーザ方式の3タイプに分かれます。  
主な製品は、OPR - 3201、OPL - 6845、OPL - 5850（以上、レーザ方式）、OPT - 6125（CCD方式）、OPI - 2002、OPI - 4002（以上、イメージスキャナ）です。
- ・ フィクスマウント.....定置式の読取装置です。工場での自動仕分け等に使用されております。  
主な製品は、NLB - 5625B（レーザ方式）、NFT - 7175（CCD方式）、NLV - 2101（イメージスキャナ）です。

（ターミナル）

- ・ データコレクタ.....携帯情報端末やノートPCと連携するモバイル対応スキャナと、簡易OSを搭載したデータ収集機能搭載のバーコード読取装置です。宅配便、郵便の集荷作業等に使用されております。  
主な製品は、OPN - 2001、OPL - 9728、OPL - 2724です。
- ・ ハンディターミナル.....スーパーやコンビニエンスストア、工場や倉庫での入出庫管理、受発注業務、運送業での配送管理に使用されております。  
主な製品は、OPH - 1003、PHL - 1000、PHL - 2600です。

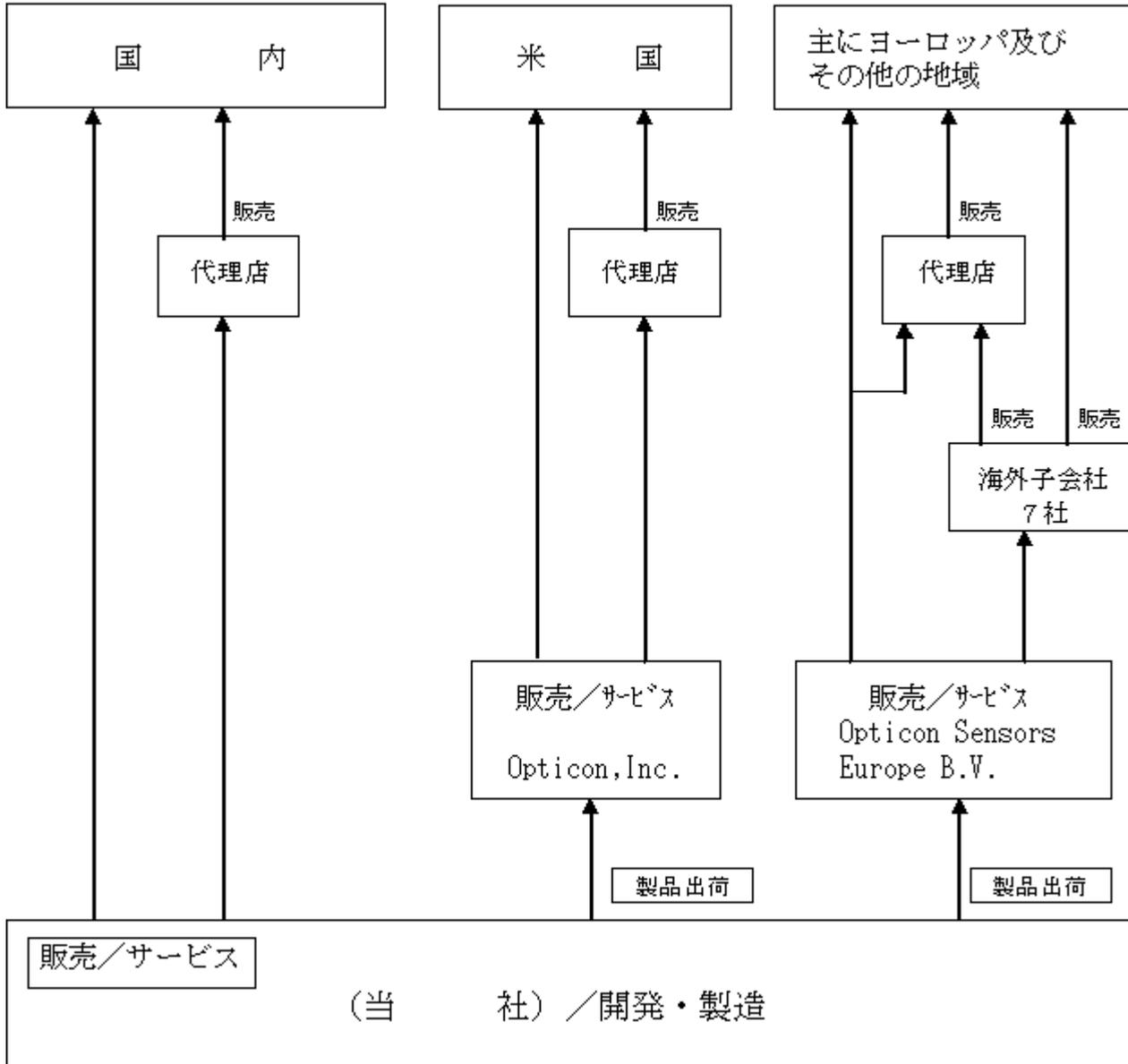
（モジュールその他）

- ・ モジュール.....バーコードや2次元シンボルを読み取るエンジン部分の部品です。バーコードリーダその他各種機器への組み込まれます。  
主な製品は、VLM - 3900（レーザモジュール）、MDL - 1000、同2000（デコーダ内蔵レーザモジュール）、MDI - 1000（イメージモジュール）です。
- ・ その他  
バーコードスキャナ周辺機器...MCR（磁気カードリーダ）他。  
バーコードスキャナ等の修理・サービス  
...当社が出荷している製品等の故障、破損、修理、保守、点検等のサービスを行っております。

(事業系統図)

以上述べた事項を事業系統図によって示しますと、次のとおりであります。

( 得 意 先 )



(注) 平成20年2月現在、事業系統図以外に事業活動を休止している子会社が3社 (Opticon SPRL、Bluestone B.V.、Opticon Sensors Benelux B.V.) あります。

#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) Opticon, Inc. (注) 1. 2	米国 ニューヨーク州	米ドル 400,000	自動認識装置の 販売	100.0	米国において当社グループ製品を販売している。 役員の兼任あり。
Opticon Sensors Europe B.V. (注) 1. 2	オランダ ホーフドルフ市	ユーロ 544,536	自動認識装置の 販売	100.0	欧州地域及びアジア地域等、日本と米国以外の地域における当社グループ製品の販売を統轄している。 役員の兼任あり。
Opticon Sensors Pty.Ltd. (注) 2. 3	オーストラリア カリオン	豪州ドル 1,020,408	自動認識装置の 販売	100.0 (100.0)	オーストラリアにおいて当社グループ製品を販売している。 役員の兼任あり。
その他9社	-	-	-	-	-

(注) 1. Opticon, Inc.、Opticon Sensors Europe B.V.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

##### 主要な損益情報等

	Opticon, Inc.	Opticon Sensors Europe B.V.
売上高	1,558,390千円	4,278,969千円
経常利益	39,110	614,352
当期純利益	13,802	388,285
純資産額	851,465	3,518,449
総資産額	987,847	3,983,900

2. Opticon, Inc.、Opticon Sensors Europe B.V.及びOpticon Sensors Pty.Ltd.は特定子会社に該当していません。

3. 議決権の所有割合の( )は、間接所有割合です。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成19年11月30日現在

従業員数	306(35)人
------	----------

- (注) 1. 当社及び連結子会社の事業は、自動認識装置の製造・販売ならびにこれらの付帯業務の単一事業であり、従業員数は製品区分別に把握していません。そのため製品区分別の記載を省略しております。
2. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含むほか、常用パートを含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含みます。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成19年11月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
207(31)	39.2	4.1	5,260,148

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含むほか、常用パートを含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含みます。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は安定しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における当社グループの売上高は、98億36百万円（前期比7.6%増）となりました。

所在地別セグメントで業績を示しますと、日本国内は、40億46百万円（前期比2.7%増）となり、米国では、フィクスマウント製品の需要減退により15億57百万円（前期比14.3%減）となりました。一方、欧州・その他地域は、ターミナル製品、モジュール製品の好調により42億32百万円（前期比25.0%増）となりました。

製品別売上実績では、スキャナ製品は35億20百万円（前期比13.9%減）となりました。一方、ターミナル製品は33億21百万円（前期比11.7%増）となり、モジュールその他においては、29億93百万円（前期比44.1%増）となりました。スキャナ製品の売上減少は、フィクスマウント製品の需要減退によるものであります。ターミナル製品の売上増加は、欧州・その他地域でハンディターミナル製品が堅調に推移したことによるものであります。またモジュール製品の大幅増加は、平成17年11月期に完成した新型モジュールエンジン7機種が順調に売上を伸ばしましたことによるものであります。

利益面では、営業利益は3億88百万円（前期比49.8%減）、経常利益は2億17百万円（前期比71.4%減）、当期純利益は29百万円（前期比79.7%減）となりました。その主な要因は、次世代の新製品であるスマートフォン機能付ターミナルの開発に注力したことにより研究開発費が増加したものの、その出荷が平成20年11月期にずれ込んだために当連結会計年度に利益を計上できなかったこと、部材の仕入価格低減や外注加工費の削減等による原価低減効果が未だ十分に現れていないこと、新社屋完成に伴う減価償却費の増加、新社屋建設資金調達に伴う支払利息の増加、たな卸資産除却損及びたな卸資産評価損の計上等により販管費及び営業外費用の増加があり、利益を圧迫したことによるものであります。

なお、所在地別売上高及び製品別の売上高の状況は、次のとおりであります。

#### （所在地別セグメントの業績）

	第30期 平成17年11月期  (千円)	第31期 平成18年11月期  (千円)	第32期 平成19年11月期 (当連結会計年度) (千円)	前期比 (%)
日本国内	4,117,206	3,938,655	4,046,383	102.7
米 国	1,230,531	1,816,881	1,557,371	85.7
欧 州	3,470,160	3,097,295	3,716,078	120.0
アジア他	182,719	287,919	516,479	179.4
合 計	9,000,618	9,140,750	9,836,313	107.6

#### （製品別売上実績）

	第30期 平成17年11月期  (千円)	第31期 平成18年11月期  (千円)	第32期 平成19年11月期 (当連結会計年度) (千円)	前期比 (%)
スキャナ	4,123,339	4,088,968	3,520,975	86.1
ターミナル	2,711,208	2,973,742	3,321,389	111.7
モジュールその他	2,166,071	2,078,039	2,993,948	144.1
合 計	9,000,618	9,140,750	9,836,313	107.6

なお、当連結会計年度の米ドルに対する平均円レートは118.89円（前連結会計年度に比べ2.48円の円安）、ユーロに対する円平均レートは159.00円（同15.37円の円安）となっております。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、長期借入れによる収入の増加があったものの、短期借入金と仕入債務の減少、有形固定資産の取得による支出等により、前連結会計年度に比べ2億1百万円減少し、当連結会計年度末には33億12百万円（前期比5.7%減）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、20億21百万円（前年同期比26億34百万円減少）となりました。たな卸資産の増加額7億24百万円及び仕入債務の減少額9億78百万円等の要因があったことによるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、23億34百万円（前年同期比16億85百万円減少）となりました。有形固定資産の

取得による支出23億6百万円等の要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、40億11百万円(前年同期比32億7百万円増加)となりました。長期借入金による収入58億円等の要因があったことによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を製品別区分ごとに示すと、次のとおりであります。

製品別区分	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
スキャナ	3,851,130	92.1
ターミナル	3,691,231	134.2
モジュールその他	3,338,909	122.6
合計	10,881,270	112.7

(注) 1. 金額は販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当社及び連結子会社の主要製品は販売見込に基づく計画生産を行っているため、該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を製品別区分ごとに示すと、次のとおりであります。

製品別区分	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
スキャナ	3,520,975	86.1
ターミナル	3,321,389	111.7
モジュールその他	2,993,948	144.1
合計	9,836,313	107.6

(注) 1. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当連結会計年度は、販売先の販売割合が、総販売実績額の10%以上を占める販売先はありません。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) 日本国内

日本国内の主要営業であるOEM販売は、大手メーカーを中心に確実に実績をあげております。引き続き、大手OEM供給先数を増やしていくと共に、新型スキャナ製品や新型ターミナル製品への切り替えを積極的に推進してまいります。

#### (2) 海外における事業展開

欧州その他においては、他社に先駆けて展開しているデータコレクタ製品をはじめとするターミナル製品の売上が順調に伸び、拡大基調で推移しております。これらの製品の拡販を進めると共に、スマートフォン機能付ターミナルの販売体制を構築し、当社の新しい成長基盤にしております。米国市場においては、製品カテゴリー別の販売体制を構築し、販売力を強化してまいります。

#### (3) 開発戦略

当社グループは、これまでスキャナ製品、ターミナル製品及びモジュールその他製品の開発に注力し、当社グループの安定成長を支える製品を開発してまいりました。今後は、バーコードリーダにPCとケータイ通信、画像処理の機能を付加した、スマートフォン機能付ターミナルをはじめ、差別化を計ることのできる「ニュー・バーコード・ビジネス」製品の開発に重点を置く方針であります。

#### (4) 生産体制

新たに日本国外の企業に生産を委託すると共に、製品に応じた生産委託先を選定し、製品製造原価の低減、在庫水準、製品品質の向上を図ってまいります。

#### (5) 管理体制

内部統制システム構築の基本方針に基づき、内部統制システムの維持、向上を図り、金融商品取引法で求められる財務報告に対応できる体制を整えると共に、企業価値の向上に努めてまいります。

## 4【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクとは考えていない事項についても、投資家の投資判断上重要と考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。本株式に関する投資判断は、以下の記載事項を慎重に検討したうえで行われる必要があると考えております。また、以下の記載は本株式への投資に関連するリスク全てを網羅するものではありませんので、この点ご留意下さい。

### 1. 事業内容に関するリスクについて

#### (1) 研究開発に関するリスクについて

##### 自動認識装置の業界動向等について

自動認識装置の業界動向は、バーコード、2次元シンボル、RFID(ICタグ)等、新たな技術の実用化が進んできております。近年、2次元シンボルやRFID(ICタグ)等に関して急速な技術革新が起こっているかのように報道されております。しかし、現在もバーコードが世界の主流であり、それにとって代わるまで他の技術は成長していません。当社グループは各技術とも緩やかに伸びていくと考えております。

当社グループは、このような環境認識のもと、バーコードリーダの開発を中心として技術開発を行い、更に2次元シンボル、RFID等に対応する技術開発も併せて進めております。

しかしながら、業界を激変させるような革新的な自動認識技術が誕生し、当社グループがこの新しい技術に適切に対応できない場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

##### バーコードリーダについて

バーコードリーダは、読取方式によりペン方式、CCD方式、レーザ方式に分類されます。ペン方式は僅かなシェアであり、ほとんどがCCD方式及びレーザ方式による製品です。米国や欧州その他の地域では、約80%をレーザ方式の製品が占めており、日本でもレーザ方式の比率が更に高まると予測しております。

当社グループは、このような環境のもと、レーザモジュールエンジンをコアとしたレーザ方式のバーコードリーダの開発体制を構築しております。更にCMOSカメラ方式、CCD方式等の技術開発を行うことにより、どの読取方式の技術進歩にも対応できるようにしております。

しかしながら、他社においてレーザ方式にとって代わるバーコードの新しい読取方式が開発され、当社グループがこの新しい技術に適切に対応できない場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

##### レーザモジュールについて

バーコードリーダの読取方式には、レーザ方式が最も採用されております。現在、レーザ方式のバーコードリーダに組み込まれる超小型化したレーザモジュールエンジンは、当社グループも含め世界で2社しか開発しておらず、このことは市場における当社グループの優位性に大きく寄与していると考えております。

しかしながら、新たなモジュール開発メーカーが出てきた場合、価格競争に陥り、そのモジュールを使用したスキャナ、ターミナル等の製品開発がなされることとなりますので、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

##### 知的財産権について

企業における特許権及びその他の知的財産権は、益々重要な存在になりつつあり、先端技術の開発を担っている当社グループにとりまして同様であります。当社グループは、必要とする多くの技術を自ら開発し、それを国内外において、特許権及びその他の知的財産権として設定し保持することにより、競争力の維持を図っております。

しかしながら、以下のような知的財産権に関する問題が発生した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

- a) 当社グループが保有する知的財産権に対して異議申立、無効請求等がなされる場合
- b) 第三者との合併又は買収の結果、従来当社グループの事業に課せられなかった新たな制約が課せられる可能性とこれらを解決するために支出を強いられる場合
- c) 当社グループが保有する知的財産権が競争上の優位性をもたらさない、又は当社グループが知的財産権を有効に行使できない場合
- d) 第三者から知的財産権の侵害を主張され、その解決のために多くの時間とコストを費やし、又は経営資源の集中を妨げられる場合
- e) 第三者からの知的財産権侵害の請求が認められ、当社グループに多額のロイヤリティの支払い又は当該技術の使用差止等が生じる場合

(2) 製造技術に関するリスクについて

製造委託について

当社グループは、自社工場である芦別工場でペン方式及びC C D方式によるスキャナを中心とした少量多品種品の生産を行い、レーザモジュール、レーザスキャナ、レーザターミナル、C M O S 製品等の大量生産品を複数のグループ外企業に外注委託しております。当社グループでは、外注委託の依存度は高く、継続的で良好な取引関係を維持しております。しかし、当社グループと外注企業との良好な取引関係が、何らかの事情によって取引に支障をきたすことになった場合は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

部品等の調達について

当社グループは、一般パーツ及び少量多種の部品や特殊部品の部品調達に関しては、自ら第三者から調達をしておりますが、一般に長期仕入れ契約を締結することなく継続的な取引関係を維持しております。このため、市場の需給関係等によっては、部品調達に影響を及ぼし、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

品質問題について

当社グループの製品に不良品や使用上の不都合があった場合、当該製品の無償での交換又は修理、また顧客のニーズに合わせた製品の改造等により新たなコストが発生します。このようなケースの発生を防ぐ対応策や発生した場合の対応について努力しておりますが、製品の品質問題で当社グループの製品の信頼性を損ない、主要顧客の喪失又は当該製品への需要の減少等により、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 販売に関するリスクについて

海外での高い販売比率について

当社グループは国境・地域を越えたグローバルな事業展開をしており、アメリカ、オランダに海外における販売の中心拠点を有し、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、スウェーデン、スペインの欧州地域並びにオーストラリア、台湾にも営業拠点を有しており海外マーケットの依存度が高くなっております。こうしたグローバルな事業展開は、各地域の市場ニーズを的確に捉えたマーケティング活動を可能とするなど、事実上の多くのメリットがあると当社グループは考えております。一方で、海外における販売に関し、各国政府の社会・政治及び経済状況の変化、輸送の遅延、地域的な労働環境の変化、労働や販売に対する諸法令、規制等海外事業展開により、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

O E M先の販売動向について

当社の国内販売において、大手O E M先への売上高が国内売上高のうち半数以上を占めております。

当社は、大手O E M先との円滑な継続的取引をしておりますが、今後、O E M先の販売動向や経営状況等、並びに競合会社の出現等何らかの事情による大幅な取引縮小が発生いたしますと、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

## 2. 経営成績に影響を与える事項について

### (1) 為替変動について

当社は、海外子会社への製品の販売に関して円建てで取引を行っています。このため、海外子会社による当社への仕入代金支払時等における為替差損益が発生します。為替差損益は、前連結会計年度、為替差益として30,139千円発生し、当連結会計年度、為替差益は4,072千円発生しております。当社グループは、従来から為替予約を実施しておりません。このため、今後も為替相場の変動により当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

### (2) 金利の変動について

当社は、運転資金、設備資金を金融機関からの借入れである有利子負債により調達しているため、総資産額に占める有利子負債の割合が高く、金利変動により当社の経営成績に影響を与える可能性があります。

	前連結会計年度	当連結会計年度
有利子負債残高（千円）	4,923,542	8,989,515
総資産額（千円）	13,689,157	16,919,493
有利子負債依存度（％）	36.0	53.1
支払利息（千円）	43,074	128,652

## 3. 人材の確保について

当社グループの事業継続及び拡大におきましては、更なる技術革新に対応しうる技術者の確保、また、世界マーケットに当社製品を販売拡大していくための営業や内部管理等の優秀な人材も充実させる必要があります。

当社グループでは、今後、優秀な経営者や従業員の採用等を進め、従業員の意識向上と組織の活性化を図るとともに優秀な人材の定着を図る方針であります。しかしながら、当社グループの求める人材が十分確保できない場合、または現在在職している人材が流出するような場合は、事業推進に影響が出る可能性があるとともに、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、経営基盤の強化と、積極的に新技術を市場に投入することにより世界シェアの増加を計り、企業成長していくことを当面の経営課題であると認識しております。当社グループは研究開発型の企業でありますので、積極的に研究開発費を投入させていただく考えであり、売上高に対する研究開発費の割合を10%以上に設定しております。

当連結会計年度の研究開発活動においては、従来から開発しているスキャナ製品、ターミナル製品及びモジュールその他製品の開発に加え、新たに、バーコードリーダにPC、ケータイ通信、画像処理の機能を付加したスマートフォン機能付ターミナルをはじめとした、差別化を図ることのできる「ニュー・バーコード・ビジネス」製品の開発を推進しております。

上記の研究開発活動等の結果、当連結会計年度の研究開発費は総額で16億60百万円となっております。

## 7【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 重要な会計方針

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されています。この連結財務諸表の作成にあたりまして、必要な仮定と見積りを行っており、それらは資産、負債、収益および費用の計上金額、長期性資産の減損の認識、金融商品の時価、及び偶発債務の開示情報に影響を与えています。こうした仮定と見積りは本質的に不確定であり、必要に応じて当社の過去の経験、既存契約の条件、業界動向の観測、お客様から提供される情報及びその他外部機関から入手可能な情報に基づいて行われます。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」」を参照して下さい。

### (2) 財政状態について

#### 流動資産

当連結会計年度末における流動資産は前連結会計年度末と比較して14億71百万円増加し、111億60百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金が3億46百万円、たな卸資産が7億79百万円、それぞれ増加したことによります。

#### 固定資産

当連結会計年度末における固定資産は前連結会計年度末と比較して17億58百万円増加し、57億58百万円となりました。これは主として、新社屋の完成に伴い、建物及び構築物が21億35百万円増加したことによります。

#### 流動負債

当連結会計年度末における流動負債は前連結会計年度末と比較して、10億89百万円減少し、60億60百万円となりました。これは主として、短期借入金から長期借入金への借り換えのために短期借入金が減少したことによります。

#### 固定負債

当連結会計年度末における固定負債は前連結会計年度末と比較して、41億1百万円増加し、54億60百万円となりました。これは主として、新社屋の建設資金、社債の償還、開発資金等の資金調達として金融機関から借入れた長期借入金が41億2百万円増加したことによります。

#### 純資産

当連結会計年度末における純資産は前連結会計年度末と比較して2億17百万円増加し、53億98百万円となりました。これは主として、為替換算調整勘定が2億44百万円増加したことによります。

### (3) 経営成績について

当連結会計年度における当社グループの売上高は、98億36百万円（前期比7.6%増）となりました。

所在地別セグメントで業績を示しますと、日本国内は、40億46百万円（前期比2.7%増）となり、米国では、フィクスマウント製品の需要減退により15億57百万円（前期比14.3%減）となりました。一方、欧州・その他地域は、ターミナル製品、モジュール製品の好調により42億32百万円（前期比25.0%増）となりました。

製品別売上実績では、スキャナ製品は35億20百万円（前期比13.9%減）となりました。一方、ターミナル製品は33億21百万円（前期比11.7%増）となり、モジュールその他においては、29億93百万円（前期比44.1%増）となりました。スキャナ製品の売上減少は、フィクスマウント製品の需要減退によるものであります。ターミナル製品の売上増加は、欧州・その他地域でハンディターミナル製品が堅調に推移したことによるものであります。またモジュール製品の大幅増加は、平成17年11月期に完成した新型モジュールエンジン7機種が順調に売上を伸ばしましたことによるものであります。

利益面では、営業利益は3億88百万円（前期比49.8%減）、経常利益は2億17百万円（前期比71.4%減）、当期純利益は29百万円（前期比79.7%減）となりました。その主な要因は、次世代の新製品であるスマートフォン機能付ターミナルの開発に注力したことにより研究開発費が増加したものの、その出荷が平成20年11月期にずれ込んだために当連結会計年度に利益を計上できなかったこと、部材の仕入価格低減や外注加工費の削減等による原価低減効果が未だ十分に現れていないこと、新社屋完成に伴う減価償却費の増加、新社屋建設資金調達に伴う支払利息の増加、たな卸資産除却損及びたな卸資産評価損の計上等により販管費及び営業外費用の増加があり、利益を圧迫したことによるものであります。

### (4) キャッシュ・フローについて

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、長期借入れによる収入の増加があったものの、短期借入金と仕入債務の減少、有形固定資産の取得による支出等により、前連結会計年度に比べ2億1百万円減少し、当連結会計年度末には33億12百万円（前期比5.7%減）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、20億21百万円（前年同期比26億34百万円減少）となりました。たな卸資産の増

加額 7 億 24 百万円及び仕入債務の減少額 9 億 78 百万円等の要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、23 億 34 百万円(前年同期比 16 億 85 百万円減少)となりました。有形固定資産の取得による支出 23 億 6 百万円等の要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、40 億 11 百万円(前年同期比 32 億 7 百万円増加)となりました。長期借入金による収入 58 億円等の要因があったことによるものであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、今後の技術開発の競争力強化のためと、経営資源の効率化を達成させるために、新本社建設に向けて設備投資を実施しました。

当連結会計年度における設備投資額は23億99百万円で、その主なものは新社屋の建設に15億57百万円、また、生産設備用金型の4億41百万円の設備投資を実施しました。

また、重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成19年11月30日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
		建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (埼玉県蕨市)	開発業務設備 統轄業務設備	2,174,291	170,495	748,787 (3,477.43)	846,534	3,940,109	145 (26)
蕨事業所 (埼玉県蕨市)	営業業務設備 物流倉庫	168,543	426	153,724 (752.85)	4,888	327,581	40 (2)
川口事業所 (埼玉県川口市)	開発業務設備	188,576	-	200,000 (1,735.89)	1,082	389,658	-
芦別工場 (北海道芦別市)	バナサートチップ部品装着機ライン他	80,922	3,999	44,082 (41,174)	21,146	150,151	19 (-)
研修及び保養所 (北海道芦別市)	研修及び宿泊設備	27,285	49	5,245 (9,899)	167	32,747	-
大阪営業所 (大阪府大阪市西区)	営業業務設備	-	-	-	482	482	3 (-)

##### (2) 在外子会社

平成19年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
Opticon, Inc.	本社 (米国・ニューヨーク州)	販売業務設備	129,230	15,783	143,260 (28,125.65)	18,673	306,947	36 (-)
Opticon Sensors Europe B.V.	本社 (オランダ・ホーフトルフ市)	販売業務設備	23,102	9,492	-	38,190	70,785	65 (7)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおります。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の( )は臨時従業員を外書しております。

3. 休止している主要な設備はありません。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループ設備投資についての業務運営環境や投資効率等を総合的に勘案して策定しております。  
なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修又は除却の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成19年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年2月21日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,263,000	5,263,000	ジャスダック証券取引所	(注)
計	5,263,000	5,263,000	-	-

(注) 普通株式は、完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成15年1月28日 (注) 1	3,746,700	4,163,000	-	255,330	-	57,330
平成16年11月17日 (注) 2	700,000	4,863,000	416,500	671,830	619,500	676,830
平成16年12月1日～ 平成17年11月30日 (注) 3	360,000	5,223,000	79,020	750,850	79,020	755,850
平成17年12月1日～ 平成18年11月30日 (注) 3	40,000	5,263,000	8,780	759,630	8,780	764,630

(注) 1. 株式 1 株を10株に分割しております。

2. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 1,480円

資本組入額 595円

払込金総額 1,036,000千円

3. 新株予約権の行使による増加であります。

4. 平成20年2月21日開催の定時株主総会において、資本準備金の額を764,630,000円から694,525,375円へ減少することを決議しております。

## (5) 【所有者別状況】

平成19年11月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	13	15	25	6	2	2,421	2,482	-
所有株式数 (単元)	-	1,224	647	13,310	1,404	14	36,028	52,627	300
所有株式数の 割合(%)	-	2.33	1.23	25.29	2.66	0.03	68.46	100.00	-

## (6) 【大株主の状況】

平成19年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
株式会社俵興産	埼玉県川口市芝中田1-5-11	1,236,200	23.49
俵 政美	28 WESTCOTT STREET, OLD TAPPAN, N.J. 07675, U.S.A.	1,180,100	22.42
俵 公子	28 WESTCOTT STREET, OLD TAPPAN, N.J. 07675, U.S.A.	191,400	3.64
志村 則彰	東京都武蔵村山市	165,000	3.14
神尾 尚秀	Peter Van Anrooyhof 12 2132 KX Hoofddorp The Netherlands	120,000	2.28
FP成長支援 A号投資事 業有限責任組合員 フ レンドリー・パートナ ーズ株式会社	東京都千代田区丸の内 2 - 2 - 1	110,000	2.09
バンクオブニューヨー ク ジーシーエムクラ イアント アカウンツ イーアイビーエル 常任代理人 株式会社 三菱東京UFJ銀行	1 BROADAGATE, LONDON EC2M YHA UNITED KINGDOM 東京都千代田区 2 - 7 - 1	72,400	1.38
土田 博也	東京都足立区	66,100	1.26
村山 晴美	東京都豊島区	61,700	1.17
ポリフォン リミテッド 常任代理人 清宮齋	c/o Moores Rowland P.O.Box 257, Port Vila, Vanuatu. 埼玉県蕨市塚越 5 - 5 - 3	60,000	1.14
計	-	3,262,900	62.00

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成19年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,262,700	52,627	-
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	5,263,000	-	-
総株主の議決権	-	52,627	-

【自己株式等】

平成19年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(8) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

- (1)【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2)【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。
- (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】  
該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。企業体質の強化と事業基盤の拡充に必要な内部留保の充実も勘案してバランス良い経営を基本方針としてまいります。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を基本方針としています。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨を定款に定めております。また毎年5月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

内部留保資金につきましては、当社を取巻く経営環境の強化や、日々進化を遂げている自動認識装置分野において、常にトップレベルの技術力をもつ製品を送り出すための開発資金等として有効な投資を考えており、技術力を基礎に業容の拡大と業界シェア獲得に励み、その結果として株主価値の最大化を実現してまいり所存であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成20年2月21日取締役会決議	52,630	10

## 4【株価の推移】

### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第28期	第29期	第30期	第31期	第32期
決算年月	平成15年11月	平成16年11月	平成17年11月	平成18年11月	平成19年11月
最高(円)	-	2,430	5,490 2,530	4,910	2,930
最低(円)	-	1,700	2,070 2,030	1,761	729

(注)第30期の最高・最低株価は、平成16年12月13日よりジャスダック証券取引所の公表のものであり、それ以前は日本証券業協会の公表のものであります。なお、第30期の事業年度別最高・最低株価のうち、は日本証券業協会の公表のものであります。

また、平成16年11月17日付をもって日本証券業協会に株式を登録いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。

### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成19年6月	7月	8月	9月	10月	11月
最高(円)	1,410	1,255	991	924	1,255	1,021
最低(円)	1,190	1,028	766	751	729	750

(注)最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所の公表のものであります。

5【役員状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	取締役社長	俵 政美	昭和23年5月11日生	昭和47年 4月 コロンビア貿易株式会社入社 昭和51年12月 当社設立(注1) 昭和52年 3月 コロンビア貿易株式会社退社 昭和52年 4月 当社入社 昭和53年 2月 当社代表取締役社長に就任 昭和59年 3月 Opticon, Inc.代表取締役に就任 昭和60年 3月 株式会社俵興産設立 同社代表取締役に就任(現任) 昭和62年 8月 Opticon Sensors Europe B.V. 代表取締役に就任 平成 2年11月 同社代表取締役を退任 平成 9年 2月 当社代表取締役会長に就任 平成13年12月 当社代表取締役社長に就任 (現任) 平成19年 3月 Opticon, Inc.代表取締役を退任 平成19年 7月 Opticon, Inc.取締役会長に就任 (現任)	(注)3	1,180.1
取締役	取締役会長	志村 則彰	昭和15年3月21日生	昭和39年 4月 カシオ計算機株式会社入社 平成 3年 6月 同社専務取締役に就任 平成 9年 6月 同社退社 平成12年 4月 当社入社、顧問に就任 平成12年 9月 当社取締役に就任 平成13年 2月 当社取締役会長に就任(現任)	(注)3	165.0
取締役	取締役副社長	神尾 尚秀	昭和27年3月20日生	昭和58年 9月 TELECOMET INC.入社 昭和59年 9月 同社退社 昭和60年 9月 Opticon, Inc.入社 平成 2年 9月 Opticon Sensors Europe B.V.に転籍 平成 2年11月 同社代表取締役に就任(現任) 平成 4年11月 当社取締役に就任 平成13年12月 当社取締役副社長に就任(現任) 平成19年 3月 Opticon, Inc.代表取締役社長に就任(現任)	(注)3	120.0
常勤監査役		田中 洋一	昭和12年3月7日生	昭和35年 4月 沖電気工業株式会社入社 平成元年 6月 同社取締役に就任 平成 4年10月 同社常務取締役に就任 平成 9年 6月 同社退社 株式会社沖電気カスタマアドテック 取締役社長に就任 平成13年 3月 同社相談役に就任 平成14年 3月 同社退社 平成16年 2月 当社監査役に就任(現任)	(注)4	10.0
監査役		大徳 宏教	昭和20年5月9日生	昭和44年 3月 アーサー・アンダーセン&カンパニー入社 昭和52年12月 監査法人朝日会計社入社 昭和58年 4月 監査法人朝日会計社退社 平成 8年 6月 カンオ計算機株式会社監査役に就任(現任) 平成 9年 8月 株式会社ウェザーニューズ監査役に就任(現任) 平成15年 2月 当社監査役に就任(現任)	(注)5	-
監査役		穴田 信次	昭和22年4月27日生	昭和48年 5月 東京証券取引所入所 昭和62年 6月 同所退所 昭和62年 6月 水戸証券株式会社入社 平成 9年 6月 同社常務取締役に就任 平成15年 6月 同社常勤監査役に就任 平成16年 8月 小津産業株式会社監査役に就任(現任) 平成17年 2月 当社監査役に就任(現任) 平成19年 6月 水戸証券株式会社監査役を退任	(注)6	3.5
計						1,478.6

(注)1. 俵政美はコロンビア貿易株式会社が在籍中に当社を設立しており、コロンビア貿易株式会社退社後、当社に入社しております。

2. 監査役田中洋一、大徳宏教及び穴田信次は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 平成20年2月21日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成20年2月21日開催の定時取締役会の終結の時から4年間
5. 平成19年2月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 平成17年2月17日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況】

### (1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスとは、「法令違反行為の未然防止機能の強化」、「ディスクロージャーや株主への説明義務の充実」、「取締役会の真の機能活性化」、「監査役機能強化による取締役の監視強化」及び「不正を防止する仕組み」であると考えております。

経営上の重要事項から実務上の諸問題に至る細かい事項まで、法律専門家の意見や会議への出席を求め、適切な経営判断や業務執行を行う体制ができております。取締役会は毎月1回開催し、経営方針、経営戦略についての意思決定機関として全取締役（3名）及び全監査役（3名）が出席しております。

### (2) 会社の機関の内容

当社は、監査役設置会社であります。

#### 取締役会

取締役会は、取締役3名から構成されております。取締役会は、毎月1回以上開催し、取締役社長が議長となり、取締役会規則に従って経営基本方針・戦略を始めとする経営上重要な意思決定を行っております。また、主な部署のグループリーダーによる事業推進会議での報告事項や検討事項の報告、月次事業報告等がなされるとともに、実質的かつ活発な議論を行っております。

#### 監査役会

監査役会は、監査役3名から構成されております。当社は、監査役全員を社外から選任し、取締役に対する監視機能が発揮できる体制にしております。

監査役は、取締役会において活発に質問や意見を述べ、取締役の業務執行状況及び取締役会の運営や議案決議の適法性・妥当性を監視しております。また監査役は、上記取締役会その他重要な会議に出席するほか、取締役等から営業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、各部門において業務及び財産の状況を調査するとともに、会計帳簿等の調査、事業報告及び計算書類ならびにこれらの附属明細書につき検討を加えた上で、監査報告書を作成しております。

#### 会計監査人

当社は、会計監査人として新日本監査法人を選任しております。当社と同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には特別な利害関係はございません。当社は同監査法人との間で、会社法監査と金融商品取引法監査について監査契約書を締結し、それに基づき報酬を支払っております。

#### 業務を執行した公認会計士の氏名

指定社員 業務執行社員 : 渡辺 憲雄  
尾崎 隆之

#### 会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 4名、 会計士補等 9名

(監査業務にかかる補助者の構成については、監査法人の選定基準により決定されております。)

#### 当社にかかる継続監査年数

継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

#### 法律顧問

当社は、相川法律事務所（東京都港区）に顧問弁護士を委嘱しており、取締役会での助言その他必要に応じてアドバイスを受けております。

#### 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件

当社は取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

#### 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、将来の経営環境の変化等に対し、機動的な資本政策を行うため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議により市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

#### 剰余金の配当等の決定機関

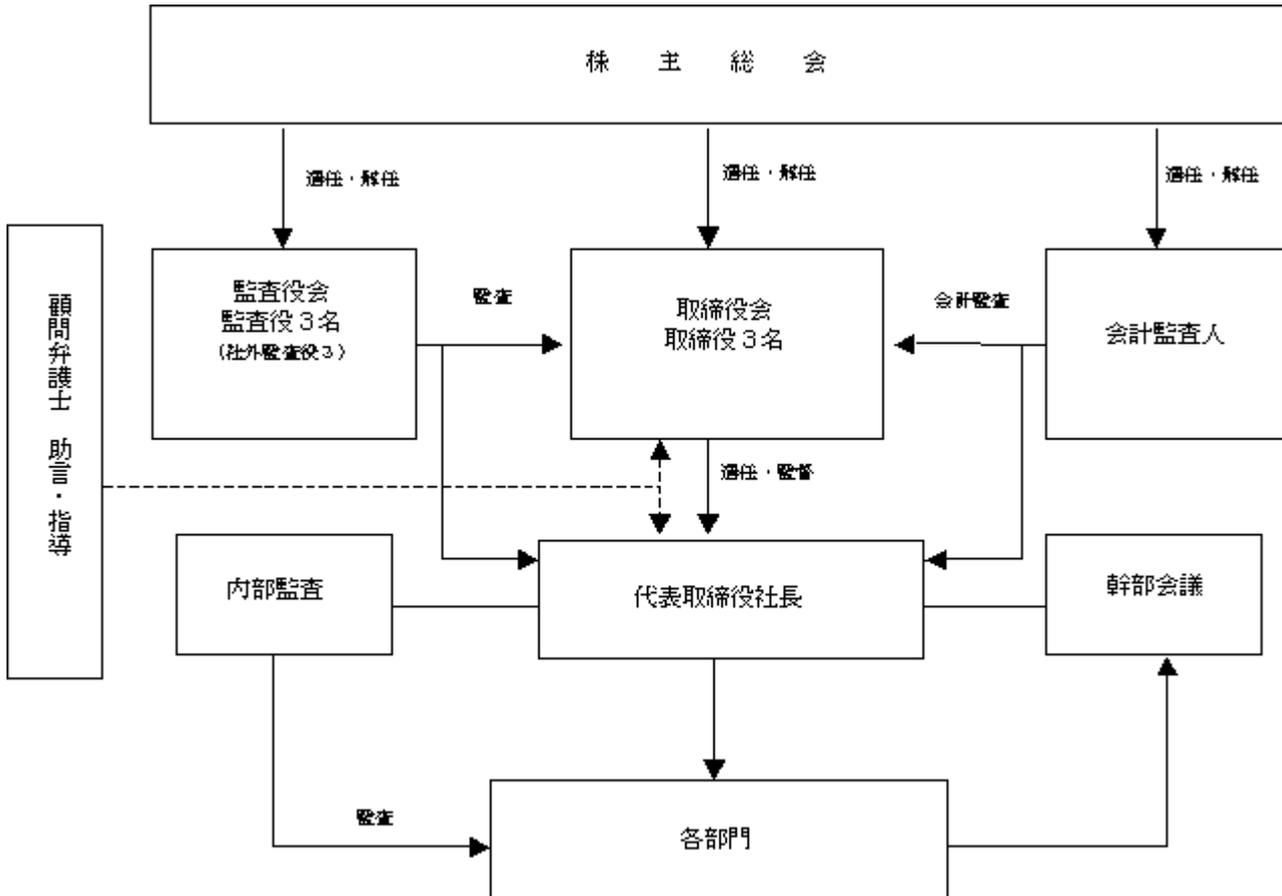
当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(3) 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況等

当社のコーポレート・ガバナンスの体制を図式化すると下記のとおりとなります。



内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査グループ（専属1名）を代表取締役社長直轄に設置しております。内部監査グループは、監査役と連携して、年1回以上全部署の監査を実施しており、内部監査の結果を内部監査報告書として取りまとめ、その結果を代表取締役社長に報告しております。また、内部監査の結果により是正処理を必要とするものは改善事項の指摘・指導を行っております。

監査役会は、毎期初に当該事業年度の決算スケジュールについてミーティングを行い、事前に会計監査人の監査計画の報告を受けております。また、中間決算期、本決算期においては、会計監査人から監査役に対し監査業務全般についての報告がなされております。

コーポレート・ガバナンスの充実にに向けた取組の実施状況

平成19年11月期は、20回の取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行状況を監督しております。

また四半期決算情報開示を継続実施し、平成19年1月、7月、10月及び平成20年1月に、機関投資家、アナリストを対象とした決算発表会を開催いたしました。株主、一般投資家を中心とする利害関係者に対しては、上記決算発表会の実施後速やかにホームページ上において同等の情報を開示しております。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社は社外取締役を選任しておりません。また当社と社外監査役3名との間に重要な取引関係はありません。

(4) 役員報酬の内容 (自平成18年12月1日 至平成19年11月30日)

区 分	取締役		監査役		計	
	支給人員 (名)	支給額 (千円)	支給人員 (名)	支給額 (千円)	支給人員 (名)	支給額 (千円)
株主総会決議に基づく報酬	3	146,028	3	13,200	6	159,228

(注) 1. 株主総会の決議 (平成14年2月27日改定) による報酬限度額

取締役 年額 200百万円

監査役 年額 40百万円

2. 当社取締役のうち2名はそれぞれ海外子会社の取締役を兼務しており、当該海外子会社から受け取っている役員報酬額は以下のとおりです。

Opticon, Inc. 年額 107,867米ドル

Opticon Sensors Europe B.V. 年額 212,657ユーロ

3. 当社は、使用人兼務取締役はおりません。

4. 取締役の報酬はすべて社内取締役に対するものであり、社外取締役の報酬については、該当事項はありません。

5. 支給人員および期末人員は次のとおりであります。

	支給人員	期末人員
取締役	3人	3人
監査役	3人	3人
計	6人	6人

(5) 監査報酬の内容

当事業年度における当社の新日本監査法人への公認会計士法第2条第1項に規定する業務に係る監査報酬は20,000千円であります。なお上記以外の業務に基づく報酬はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成18年12月1日から平成19年11月30日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、第31期事業年度(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、第32期事業年度(平成18年12月1日から平成19年11月30日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前連結会計年度(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)の連結財務諸表及び第31期事業年度(平成17年12月1日から平成18年11月30日まで)の財務諸表について、新日本監査法人の監査を受け、また金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当連結会計年度(平成18年12月1日から平成19年11月30日まで)及び第32期事業年度(平成18年12月1日から平成19年11月30日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本監査法人により監査を受けております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成18年11月30日)		当連結会計年度 (平成19年11月30日)		
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	
(資産の部)						
流動資産						
1.現金及び預金		3,513,500		3,316,234		
2.受取手形及び売掛金		2,401,835		2,748,595		
3.たな卸資産		3,156,973		3,936,882		
4.繰延税金資産		17,147		52,545		
5.その他		630,918		1,143,757		
貸倒引当金		31,602		37,518		
流動資産合計		9,688,773	70.8	11,160,498	66.0	
固定資産						
1.有形固定資産						
(1)建物及び構築物	1	1,283,062		3,539,958		
減価償却累計額		626,862	656,199	748,006	2,791,952	
(2)機械装置及び運搬具		430,519		536,093		
減価償却累計額		291,542	138,977	335,847	200,246	
(3)工具器具及び備品		1,858,332		2,332,292		
減価償却累計額		1,408,226	450,105	1,699,418	632,873	
(4)土地	1		1,306,556		1,303,490	
(5)建設仮勘定			938,165		344,668	
有形固定資産合計			3,490,004	25.5	5,273,231	31.1
2.無形固定資産						
(1)その他			280,692		263,121	
無形固定資産合計			280,692	2.0	263,121	1.6
3.投資その他の資産						
(1)投資有価証券			32,018		24,764	
(2)その他			197,667		199,237	
貸倒引当金			-		1,360	
投資その他の資産合計			229,686	1.7	222,642	1.3
固定資産合計			4,000,383	29.2	5,758,995	34.0
資産合計			13,689,157	100.0	16,919,493	100.0

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成18年11月30日)		当連結会計年度 (平成19年11月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
<b>(負債の部)</b>					
流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	1	2,469,742	52.3	1,501,971	35.8
2. 短期借入金		2,620,725		2,217,000	
3. 1年以内返済予定の長期借入金		555,749		1,255,300	
4. 1年以内償還予定の社債		432,000		100,000	
5. 未払法人税等		111,902		31,893	
6. 設備関係支払手形		194,400		215,232	
7. その他		764,932		738,823	
流動負債合計		7,149,452		6,060,220	
固定負債					
1. 社債	1	600,000	9.9	600,000	32.3
2. 長期借入金		715,068		4,817,215	
3. 繰延税金負債		43,744		43,556	
固定負債合計		1,358,812		5,460,771	
負債合計		8,508,265	62.2	11,520,991	68.1
<b>(純資産の部)</b>					
株主資本					
1. 資本金		759,630	5.5	759,630	4.5
2. 資本剰余金		765,070	5.6	765,070	4.5
3. 利益剰余金		3,404,386	24.9	3,381,446	20.0
株主資本合計		4,929,086	36.0	4,906,146	29.0
評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金		8,294	0.0	3,978	0.0
2. 為替換算調整勘定		243,510	1.8	488,376	2.9
評価・換算差額等合計		251,805	1.8	492,355	2.9
純資産合計		5,180,892	37.8	5,398,501	31.9
負債純資産合計		13,689,157	100.0	16,919,493	100.0

【連結損益計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)			当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)			
		金額(千円)		百分比 (%)	金額(千円)		百分比 (%)	
売上高	1,2		9,140,750	100.0		9,836,313	100.0	
売上原価			4,332,041	47.4		4,741,320	48.2	
売上総利益			4,808,708	52.6		5,094,992	51.8	
販売費及び一般管理費			4,033,684	44.1		4,706,013	47.8	
営業利益			775,024	8.5		388,979	4.0	
営業外収益								
1. 受取利息			44,156			74,289		
2. 為替差益			30,139			4,072		
3. その他			2,433	76,729	0.8	14,203	92,565	0.9
営業外費用								
1. 支払利息		43,074			128,652			
2. 社債発行費償却		-			2,159			
3. たな卸資産除却損		12,031			63,915			
4. たな卸資産評価損		29,457			53,097			
5. 固定資産除却損		953			15,367			
6. その他		6,520	92,036	1.0	1,267	264,459	2.7	
経常利益			759,717	8.3		217,085	2.2	
特別利益								
1. 貸倒引当金戻入益		5,575	5,575	0.0	-	-	-	
特別損失								
1. 減損損失	3	103,097	103,097	1.1	-	-	-	
税金等調整前当期純利益			662,195	7.2		217,085	2.2	
法人税、住民税及び事業税		311,097			210,663			
法人税等調整額		204,686	515,784	5.6	23,268	187,395	1.9	
当期純利益			146,411	1.6		29,689	0.3	

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成17年11月30日 残高（千円）	750,850	756,290	3,271,032	4,778,172
連結会計年度中の変動額				
新株の発行	8,780	8,780		17,560
剰余金の配当			13,057	13,057
当期純利益			146,411	146,411
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額（純額）				
連結会計年度中の変動額合計（千円）	8,780	8,780	133,354	150,914
平成18年11月30日 残高（千円）	759,630	765,070	3,404,386	4,929,086

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成17年11月30日 残高（千円）	9,778	31,871	22,093	4,756,079
連結会計年度中の変動額				
新株の発行				17,560
剰余金の配当				13,057
当期純利益				146,411
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額（純額）	1,483	275,381	273,898	273,898
連結会計年度中の変動額合計（千円）	1,483	275,381	273,898	424,812
平成18年11月30日 残高（千円）	8,294	243,510	251,805	5,180,892

当連結会計年度（自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成18年11月30日 残高（千円）	759,630	765,070	3,404,386	4,929,086
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当			52,630	52,630
当期純利益			29,689	29,689
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額（純額）				
連結会計年度中の変動額合計（千円）	-	-	22,940	22,940
平成19年11月30日 残高（千円）	759,630	765,070	3,381,446	4,906,146

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成18年11月30日 残高（千円）	8,294	243,510	251,805	5,180,892
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当				52,630
当期純利益				29,689
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額（純額）	4,316	244,865	240,549	240,549
連結会計年度中の変動額合計（千円）	4,316	244,865	240,549	217,609
平成19年11月30日 残高（千円）	3,978	488,376	492,355	5,398,501

【連結キャッシュ・フロー計算書】

		前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		662,195	217,085
減価償却費		371,782	543,829
長期前払費用償却額		1,833	1,267
社債発行費償却		-	2,159
のれん償却額		1,010	-
貸倒引当金の増減額 (減少: )		3,989	5,250
受取利息及び受取配当金		44,263	74,546
支払利息		43,074	128,652
為替差損		331	1,002
固定資産除却損		953	15,367
減損損失		103,097	-
売上債権の増減額 (増加: )		112,412	277,125
たな卸資産の増減額 (増加: )		848,356	724,117
仕入債務の増減額 (減少: )		711,268	978,156
その他資産の増減額 (増加: )		166,281	419,173
その他負債の増減額 (減少: )		101,656	54,876
小計		1,046,724	1,613,380
利息及び配当金の受取額		44,322	74,546
利息の支払額		42,903	127,027
法人税等の支払額		435,480	355,913
営業活動によるキャッシュ・フロー		612,662	2,021,776

		前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		-	4,127
定期預金の解約による収入		413,036	-
有形固定資産の取得による支出		1,004,518	2,306,119
有形固定資産の売却による収入		1,100	-
無形固定資産の取得による支出		54,071	21,700
その他投資の増減額 (増加: )		4,509	2,853
投資活動によるキャッシュ・フロー		648,963	2,334,800
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額 (減少: )		1,919,761	403,731
長期借入れによる収入		-	5,800,000
長期借入金の返済による支出		1,072,484	998,302
社債の発行による収入		-	97,840
社債の償還による支出		48,000	432,000
株式の発行による収入		17,530	-
配当金の支払額		13,057	52,630
財務活動によるキャッシュ・フロー		803,749	4,011,177
現金及び現金同等物に係る換算差額		166,768	144,007
現金及び現金同等物の増減額(減少: )		934,216	201,392
現金及び現金同等物の期首残高		2,579,284	3,513,500
現金及び現金同等物の期末残高	1	3,513,500	3,312,107

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
1 連結の範囲に関する事項	連結子会社の数 12社 主要な連結子会社の名称 Opticon, Inc. Opticon Sensors Europe B.V.	同左
2 持分法の適用に関する事項	持分法適用の関連会社はありません。	同左
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社の決算日は9月30日であります。 連結財務諸表の作成に当たっては、当該子会社の同日現在の財務諸表を使用しております。ただし、10月1日から連結決算日11月30日までの期間に発生した重要な取引については、連結決算上必要な調整を行っております。	同左  同左
4 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法	1 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。 2 デリバティブ 時価法 3 たな卸資産 (1) 製品・仕掛品 個別法に基づく原価法を採用しております。 (2) 原材料 移動平均法に基づく原価法を採用しております。	1 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左  時価のないもの 同左  2 デリバティブ 同左  3 たな卸資産 (1) 製品・仕掛品 同左  (2) 原材料 同左

項目	前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)						
(2) 重要な減価償却資産の 減価償却方法	<p>1 有形固定資産</p> <p>当社は定率法を、また連結子会社は定額法を採用しております。 (ただし、当社は平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)は定額法によっております。)</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table data-bbox="539 533 880 631"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>4～50年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>2～11年</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td>2～15年</td> </tr> </table> <p>2 無形固定資産</p> <p>定額法を採用しております。</p> <p>なお、市場販売目的のソフトウェアについては、販売可能な見込有効期間に基づく定額法、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間に基づく定額法を採用しております。</p>	建物及び構築物	4～50年	機械装置及び運搬具	2～11年	工具器具及び備品	2～15年	<p>1 有形固定資産</p> <p>同左</p> <p>(耐用年数の変更)</p> <p>当社グループの金型については、従来法人税法に規定する耐用年数(2年)により減価償却を行ってきましたが、当連結会計年度より使用可能予測期間による耐用年数(3年)に変更いたしました。</p> <p>この変更は、製品種類の増加に伴い金型設備が増加したことに伴う金型管理の徹底を契機に稼働状況を見直した結果、当該資産の使用可能予測年数と従来の耐用年数の乖離を是正するものであります。</p> <p>この変更により、当連結会計年度の売上原価に含まれる減価償却費が20,943千円減少し、売上総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益は、20,943千円増加しております。</p> <p>2 無形固定資産</p> <p>同左</p>
建物及び構築物	4～50年							
機械装置及び運搬具	2～11年							
工具器具及び備品	2～15年							

項目	前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
(3) 重要な繰延資産の処理方法	株式交付費 支出時に全額費用として処理しております。	社債発行費 支出時に全額費用として処理しております。
(4) 重要な引当金の計上基準	貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。	貸倒引当金 同左
(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準	外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。	同左
(6) 重要なリース取引の処理方法	当社は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左

項目	前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
(7) 重要なヘッジ会計の方法	<p>1 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>2 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利スワップ ヘッジ対象・・・借入金の利息</p> <p>3 ヘッジ方針 金利リスク低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。</p> <p>4 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。</p>	<p>1 ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>2 ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>3 ヘッジ方針 同左</p> <p>4 ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6 のれんの償却に関する事項	のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。	
7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
<p>(固定資産の減損に係る会計基準)</p> <p>当連結会計年度より、固定資産の減損に係る会計基準(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。</p> <p>これにより税金等調整前当期純利益が103,097千円減少しております。</p>	
<p>(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準)</p> <p>当連結会計年度より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。</p> <p>従来「資本の部」の合計に相当する金額は5,180,892千円であります。</p> <p>なお、連結財務諸表規則の改正により、当連結会計年度における連結貸借対照表の純資産の部については、改正後の連結財務諸表規則により作成しております。</p>	

注記事項

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成18年11月30日)	当連結会計年度 (平成19年11月30日)																																				
<p>1 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">担保資産</td> </tr> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">164,996千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">200,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">364,996</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">担保付債務</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1年以内返済予定の長期借入金</td> </tr> <tr> <td style="width: 60%;">30,840千円</td> <td style="text-align: right;">30,840千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">138,930</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">169,770</td> </tr> </table>	担保資産		建物	164,996千円	土地	200,000	合計	364,996	担保付債務		1年以内返済予定の長期借入金		30,840千円	30,840千円	長期借入金	138,930	合計	169,770	<p>1 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">担保資産</td> </tr> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,799,515千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">1,102,512</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,902,027</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">担保付債務</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1年以内返済予定の長期借入金</td> </tr> <tr> <td style="width: 60%;">168,266千円</td> <td style="text-align: right;">168,266千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">2,734,904</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,903,170</td> </tr> </table>	担保資産		建物	1,799,515千円	土地	1,102,512	合計	2,902,027	担保付債務		1年以内返済予定の長期借入金		168,266千円	168,266千円	長期借入金	2,734,904	合計	2,903,170
担保資産																																					
建物	164,996千円																																				
土地	200,000																																				
合計	364,996																																				
担保付債務																																					
1年以内返済予定の長期借入金																																					
30,840千円	30,840千円																																				
長期借入金	138,930																																				
合計	169,770																																				
担保資産																																					
建物	1,799,515千円																																				
土地	1,102,512																																				
合計	2,902,027																																				
担保付債務																																					
1年以内返済予定の長期借入金																																					
168,266千円	168,266千円																																				
長期借入金	2,734,904																																				
合計	2,903,170																																				

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)																										
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">従業員給与</td> <td style="text-align: right;">823,101千円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">1,476,260千円</td> </tr> <tr> <td>のれん償却額</td> <td style="text-align: right;">1,010千円</td> </tr> </table> <p>2 一般管理費に含まれる研究開発費 1,476,260千円</p> <p>3 減損損失 当連結会計年度において当社は、以下の資産について減損損失を計上しました。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">用途</th> <th style="text-align: left;">種類</th> <th style="text-align: left;">場所</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休</td> <td>土地</td> <td>北海道芦別工場</td> <td style="text-align: right;">66,600千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(経緯) 上記土地については、北海道芦別工場の隣接地に工場等建設予定地として取得しましたが、生産体制等経営計画の変更により現在は遊休資産となっております。今後の利用計画もなく地価も著しく下落しているため、減損損失を認識いたしました。 (回収可能価額の算定方法等) 遊休資産の回収可能価額は正味売却価額により算出しており、固定資産税評価額を基礎として評価しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">用途</th> <th style="text-align: left;">種類</th> <th style="text-align: left;">場所</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休</td> <td>建設仮勘定 (金型)</td> <td>川口事業所</td> <td style="text-align: right;">36,497千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(経緯) 上記金型については、川口事業所における開発プロジェクトの仕様変更により、不要となった金型の帳簿価額を減額し、当該減少額(帳簿価額全額)を減損損失として特別損失に計上しました。</p>	従業員給与	823,101千円	研究開発費	1,476,260千円	のれん償却額	1,010千円	用途	種類	場所	金額	遊休	土地	北海道芦別工場	66,600千円	用途	種類	場所	金額	遊休	建設仮勘定 (金型)	川口事業所	36,497千円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">従業員給与</td> <td style="text-align: right;">984,019千円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">1,660,131千円</td> </tr> </table> <p>2 一般管理費に含まれる研究開発費 1,660,131千円</p> <p>3</p>	従業員給与	984,019千円	研究開発費	1,660,131千円
従業員給与	823,101千円																										
研究開発費	1,476,260千円																										
のれん償却額	1,010千円																										
用途	種類	場所	金額																								
遊休	土地	北海道芦別工場	66,600千円																								
用途	種類	場所	金額																								
遊休	建設仮勘定 (金型)	川口事業所	36,497千円																								
従業員給与	984,019千円																										
研究開発費	1,660,131千円																										

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成17年12月1日 至平成18年11月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	5,223,000	40,000	-	5,263,000
合計	5,223,000	40,000	-	5,263,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成18年2月17日 定時株主総会	普通株式	13,057	2.5	平成17年11月30日	平成18年2月17日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年2月22日 定時株主総会	普通株式	52,630	利益剰余金	10	平成18年11月30日	平成19年2月23日

当連結会計年度（自平成18年12月 1日 至平成19年11月30日）

1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	5,263,000	-	-	5,263,000
合計	5,263,000	-	-	5,263,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2．配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成19年2月22日 定時株主総会	普通株式	52,630	10	平成18年11月30日	平成19年2月23日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年2月21日 取締役会	普通株式	52,630	資本剰余金	10	平成19年11月30日	平成20年2月22日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成18年11月30日現在)	1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成19年11月30日現在)
現金及び預金勘定 3,513,500千円	現金及び預金勘定 3,316,234千円
預入期間が3ヶ月を超える定 期預金 - 千円	預入期間が3ヶ月を超える定 期預金 4,127千円
現金及び現金同等物 3,513,500千円	現金及び現金同等物 3,312,107千円



## ( 有価証券関係 )

## 1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	前連結会計年度 (平成18年11月30日)			当連結会計年度 (平成19年11月30日)		
		取得原価 (千円)	連結貸借対照 表計上額 (千円)	差額 (千円)	取得原価 (千円)	連結貸借対照 表計上額 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計 上額が取得原価を 超えるもの	(1) 株式	5,497	19,438	13,941	5,497	12,185	6,686
	(2) 債券						
	国債・地方債等	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
(3) その他	-	-	-	-	-	-	
	小計	5,497	19,438	13,941	5,497	12,185	6,686
連結貸借対照表計 上額が取得原価を 超えないもの	(1) 株式	-	-	-	-	-	-
	(2) 債券						
	国債・地方債等	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
(3) その他	-	-	-	-	-	-	
	小計	-	-	-	-	-	-
	合計	5,497	19,438	13,941	5,497	12,185	6,686

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

## 2. 時価評価されていない主な有価証券の内容

	前連結会計年度 (平成18年11月30日)	当連結会計年度 (平成19年11月30日)
	連結貸借対照表計上額(千円)	連結貸借対照表計上額(千円)
その他有価証券(非上場株式)	12,579	12,579

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

<p>前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)</p>
<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、金利スワップ取引であります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利スワップ ヘッジ対象・・・借入金の利息 ヘッジ方針 金利リスク低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 金利スワップ取引は市場金利の変動によるリスクを有しております。</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。</p>	<p>(1) 取引の内容 同左</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同左</p> <p>(3) 取引の利用目的 同左</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 同左</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 同左</p>

2. 取引の時価等に関する事項

前連結会計年度（自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）及び当連結会計年度（自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）

金利スワップ取引を行っておりますが、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。

（退職給付関係）

前連結会計年度（自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）及び当連結会計年度（自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）

当社及び連結子会社は、退職給付制度を採用していないため、該当事項はありません。

（ストック・オプション等関係）

前連結会計年度（自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）

ストック・オプション制度の内容、規模及びその変動状況

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、旧商法第280条ノ21の規定に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

（1）新株予約権としてのストック・オプションの内容

	平成14年 新株予約権
付与対象者の区分及び数	取締役 2名
ストック・オプション数	普通株式400,000株
付与日	平成14年9月17日
権利確定条件	付与日（平成14年9月17日）以降、権利確定日（平成16年11月30日）まで当社の取締役の地位にあること。
対象勤務期間	自 平成14年9月18日 至 平成16年11月30日
権利行使期間	平成16年12月1日から平成18年11月30日まで。ただし、予約権の割当を受けた者は、新株予約権の権利行使時においても当社の取締役の地位にあることを要す。

（注）上記に記載された株式数は、平成15年1月28日付株式分割（株式1株につき10株）による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

前連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成14年 ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	40,000
権利確定	-
権利行使	40,000
失効	-
未行使残	-

単価情報

	平成14年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	439
行使時平均株価 (円)	2,910
公正な評価単価(付与日)(注)	-

(注) 会社法施行前に付与された新株予約権であるため、記載しておりません。

当連結会計年度(自平成18年12月1日 至平成19年11月30日)

該当事項はありません。

## ( 税効果会計関係 )

前連結会計年度 ( 自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日 )	当連結会計年度 ( 自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日 )
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別 内訳	1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別 内訳
( 単位 : 千円 )	( 単位 : 千円 )
繰延税金資産	繰延税金資産
たな卸資産評価損	たな卸資産評価損
繰越欠損金	繰越欠損金
未実現利益	未実現利益
減価償却超過額	減価償却超過額
研究開発費	研究開発費
減損損失	減損損失
その他	その他
小計	小計
評価性引当額	評価性引当額
繰延税金資産合計	繰延税金資産合計
繰延税金負債	繰延税金負債
貸倒引当金連結消去	貸倒引当金連結消去
子会社株式売却損連結消去	子会社株式売却損連結消去
その他有価証券評価差額	その他有価証券評価差額
繰延税金負債合計	繰延税金負債合計
繰延税金資産の純額	繰延税金資産の純額
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担 率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因 となった主要な項目別の内訳	2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担 率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因 となった主要な項目別の内訳
( % )	( % )
法定実効税率	法定実効税率
( 調整 )	( 調整 )
住民税の均等割額	住民税の均等割額
永久に損金に算入されない項目	永久に損金に算入されない項目
評価性引当額	評価性引当額
海外子会社の税率差異	海外子会社の税率差異
その他	その他
税効果会計適用後の法人税等の負担率	税効果会計適用後の法人税等の負担率

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成17年12月1日 至平成18年11月30日)及び当連結会計年度(自平成18年12月1日 至平成19年11月30日)

当社及び連結子会社の事業は、バーコードリーダーの製造、販売並びにこれらの付帯業務の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

最近2連結会計年度の所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成17年12月1日 至平成18年11月30日)

	日本 (千円)	米国 (千円)	欧州 (千円)	アジア他 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社(千円)	連結 (千円)
. 売上高及び営業利益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	3,938,655	1,816,881	3,097,295	287,919	9,140,750	-	9,140,750
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	2,325,002	1,685	248,019	-	2,574,707	(2,574,707)	-
計	6,263,658	1,818,566	3,345,314	287,919	11,715,458	(2,574,707)	9,140,750
営業費用	4,776,759	1,592,321	2,778,990	287,929	9,436,001	(1,070,276)	8,365,725
営業利益又は営業 損失( )	1,486,898	226,245	566,323	10	2,279,456	(1,504,431)	775,024
. 資産	9,935,640	1,190,561	3,275,904	144,659	14,546,764	(857,607)	13,689,157

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の主な内訳は次のとおりであります。

欧州・・・オランダ、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、ベルギー、スペイン

アジア他・・・台湾、オーストラリア

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は1,476,260千円であり、その全額が研究開発費であります。

4. 資産のうち、消去又は全社に含めた配分不能の全社資産はありません。

当連結会計年度（自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）

	日本 (千円)	米国 (千円)	欧州 (千円)	アジア他 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社(千円)	連結 (千円)
・売上高及び営業利益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	4,046,383	1,557,371	3,716,078	516,479	9,836,313	-	9,836,313
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	2,560,344	1,018	448,853	-	3,010,217	(3,010,217)	-
計	6,606,727	1,558,390	4,164,932	516,479	12,846,530	(3,010,217)	9,836,313
営業費用	5,387,663	1,519,351	3,467,396	472,081	10,846,493	(1,399,159)	9,447,333
営業利益	1,219,063	39,039	697,536	44,397	2,000,037	(1,611,057)	388,979
・資産	12,578,310	987,847	3,988,299	177,023	17,731,481	(811,988)	16,919,493

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の主な内訳は次のとおりであります。

欧州・・・オランダ、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、ベルギー、スペイン

アジア他・・・台湾、オーストラリア

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は1,660,131千円が、研究開発費であります。

4. 資産のうち、消去又は全社に含めた配分不能の全社資産はありません。

【海外売上高】

最近2連結会計年度の海外売上高は次のとおりであります。

前連結会計年度（自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）

	米国	欧州	アジア他	計
海外売上高(千円)	1,816,881	3,097,295	287,919	5,202,095
連結売上高(千円)	-	-	-	9,140,750
連結売上高に占める海外 売上高の割合(%)	19.9	33.9	3.1	56.9

当連結会計年度（自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）

	米国	欧州	アジア他	計
海外売上高(千円)	1,557,371	3,716,078	516,479	5,789,930
連結売上高(千円)	-	-	-	9,836,313
連結売上高に占める海外 売上高の割合(%)	15.8	37.8	5.3	58.9

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の主な内訳は次のとおりであります。

欧州・・・オランダ、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、ベルギー、スペイン

アジア他・・・台湾、オーストラリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【関連当事者との取引】

前連結会計年度（自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

前連結会計年度 （自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）		当連結会計年度 （自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）	
1株当たり純資産額	984.40円	1株当たり純資産額	1,025.75円
1株当たり当期純利益金額	27.93円	1株当たり当期純利益金額	5.64円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	27.83円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-
		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

（注） 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 （自平成17年12月1日 至平成18年11月30日）	当連結会計年度 （自平成18年12月1日 至平成19年11月30日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益（千円）	146,411	29,689
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	146,411	29,689
期中平均株式数（千株）	5,241	5,263
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額（千円）	-	-
普通株式増加数（株）	19,763	-
（うち新株予約権（株））	(19,763)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	当連結会計年度 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
<p>当連結会計年度末日後、取締役会決議に基づき以下のとおり資金の借入を実行しております。</p>	
<p>1. 平成18年12月25日取締役会決議</p>	
資金使途	運転資金
借入先	三井住友銀行
金額	1,000,000千円
利率	1.095%
実行日	平成18年12月27日
借入期間	1年
弁済方法	一括返済
担保及び保証	無担保、無保証
<p>2. 平成18年12月25日取締役会決議</p>	
資金使途	運転資金
借入先	埼玉りそな銀行
金額	300,000千円
利率	0.950%
実行日	平成19年1月4日
借入期間	1年
弁済方法	一括返済
担保及び保証	無担保、無保証
<p>3. 平成19年1月30日取締役会決議</p>	
資金使途	設備資金
借入先	住友信託銀行
金額	500,000千円
利率	1.580%
実行日	平成19年1月31日
借入期間	3年
弁済方法	毎年4回の分割返済
担保及び保証	無担保、無保証

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
株式会社オプトエレクトロニクス	第3回無担保社債	14. 9.20	100,000 (100,000)	-	0.80	なし	19. 9.20
株式会社オプトエレクトロニクス	第4回無担保社債	14. 9.25	100,000 (100,000)	-	0.62	なし	19. 9.25
株式会社オプトエレクトロニクス	第5回無担保社債	14.12.26	32,000 (32,000)	-	0.31	なし	18. 12.26
株式会社オプトエレクトロニクス	第6回無担保社債	15. 2.25	100,000	100,000 (100,000)	0.55	なし	20. 2.24
株式会社オプトエレクトロニクス	第7回無担保社債	15. 2.23	200,000 (200,000)	-	0.63	なし	19. 2.25
株式会社オプトエレクトロニクス	第8回無担保社債	16. 9.30	500,000	500,000	0.19	なし	26. 9.30
株式会社オプトエレクトロニクス	第9回無担保社債	19. 9.28	-	100,000	1.59	なし	22.9.28
合計	-	-	1,032,000 (432,000)	700,000 (100,000)	-	-	-

(注) 1. ( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内(千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
100,000	-	100,000	-	-

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,620,725	2,217,000	1.08	-
1年以内に返済予定の長期借入金	555,749	1,255,300	1.78	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	715,068	4,817,215	2.28	平成20年~39年
その他の有利子負債	-	-	-	-
計	3,891,542	8,289,515	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,445,907	865,857	259,516	213,954

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

区分	注記 番号	第31期 (平成18年11月30日)		第32期 (平成19年11月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(資産の部)					
流動資産					
1.現金及び預金			1,269,642		1,391,317
2.受取手形			328,826		308,557
3.売掛金	2		1,315,430		1,397,542
4.製品			914,130		1,225,543
5.原材料			1,606,937		1,571,760
6.仕掛品			11,695		13,885
7.貯蔵品			2,896		6,552
8.前渡金			117,950		585,247
9.前払費用			23,830		34,620
10.未収入金			278,828		189,419
11.その他			1,440		42,576
貸倒引当金			1,600		2,750
流動資産合計			5,870,008	59.0	6,764,273
固定資産					
1.有形固定資産					
(1)建物	1	979,860		3,085,807	
減価償却累計額		476,204	503,655	586,009	2,499,797
(2)構築物		42,770		184,365	
減価償却累計額		33,312	9,458	44,544	139,821
(3)機械装置		163,124		267,563	
減価償却累計額		63,586	99,537	95,772	171,790
(4)車両運搬具		21,631		19,318	
減価償却累計額		16,787	4,843	16,138	3,180
(5)工具器具及び備品		1,731,127		2,162,753	
減価償却累計額		1,314,318	416,809	1,586,743	576,010
(6)土地	1		1,160,230		1,160,230
(7)建設仮勘定			938,165		344,668
有形固定資産合計			3,132,700	31.6	4,895,498

区分	注記 番号	第31期 (平成18年11月30日)		第32期 (平成19年11月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
2. 無形固定資産					
(1) 借地権		222,840		234,040	
(2) ソフトウェア		43,971		23,166	
(3) その他		3,971		3,971	
無形固定資産合計		270,782	2.7	261,177	2.1
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券		38,018		30,764	
(2) 関係会社株式		436,278		436,278	
(3) 出資金		20		20	
(4) 従業員長期貸付金		-		1,360	
(5) 保険積立金		43,456		48,066	
(6) 長期前払費用		1,267		-	
(7) 敷金保証金		149,368		148,258	
貸倒引当金		-		1,360	
投資その他の資産合計		668,408	6.7	663,387	5.2
固定資産合計		4,071,891	41.0	5,820,064	46.2
資産合計		9,941,900	100.0	12,584,337	100.0
(負債の部)					
流動負債					
1. 支払手形		1,699,000		1,045,926	
2. 買掛金		775,447		462,499	
3. 短期借入金		2,620,000		2,217,000	
4. 1年以内返済予定の長期借入金	1	555,749		1,255,300	
5. 1年以内償還予定の社債		432,000		100,000	
6. 未払金		132,507		142,629	
7. 未払費用		161,224		181,651	
8. 未払法人税等		9,640		7,262	
9. 前受金		18		-	
10. 預り金		7,977		9,680	
11. 設備関係支払手形		194,400		215,232	
流動負債合計		6,587,966	66.3	5,637,182	44.8

区分	注記 番号	第31期 (平成18年11月30日)		第32期 (平成19年11月30日)		
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	
固定負債	1					
1. 社債			600,000		600,000	
2. 長期借入金			715,068		4,817,215	
3. 繰延税金負債			5,646		2,708	
固定負債合計			1,320,714	13.3	5,419,923	43.1
負債合計		7,908,680	79.5	11,057,105	87.9	
(純資産の部)						
株主資本						
1. 資本金			759,630	7.6	759,630	6.0
2. 資本剰余金						
(1) 資本準備金		764,630		764,630		
(2) その他資本剰余金		440		440		
資本剰余金合計			765,070	7.7	765,070	6.1
3. 利益剰余金						
(1) 利益準備金		16,467		16,467		
(2) その他利益剰余金						
別途積立金		30,779		30,779		
繰越利益剰余金		452,977		48,694		
利益剰余金合計			500,224	5.0	1,447	0.0
株主資本合計			2,024,924	20.4	1,523,252	12.1
評価・換算差額等						
1. その他有価証券評価差額金			8,294	0.1	3,978	0.0
評価・換算差額等合計			8,294	0.1	3,978	0.0
純資産合計			2,033,219	20.5	1,527,231	12.1
負債純資産合計			9,941,900	100.0	12,584,337	100.0

【損益計算書】

区分	注記 番号	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)			第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)		
		金額(千円)		百分比 (%)	金額(千円)		百分比 (%)
売上高	1		6,263,658	100.0		6,606,727	100.0
売上原価							
1. 期首製品たな卸高		632,367			914,130		
2. 当期製品製造原価		4,187,201			4,679,418		
合計		4,819,568			5,593,549		
3. 他勘定振替高	2	22,146			55,014		
4. 期末製品たな卸高		914,130	3,883,291	62.0	1,225,543	4,312,991	65.3
売上総利益			2,380,366	38.0		2,293,736	34.7
販売費及び一般管理費	3,4		2,374,408	37.9		2,480,736	37.5
営業利益又は営業損失 ( )			5,958	0.1		186,999	2.8
営業外収益							
1. 受取利息		125			1,432		
2. 償却債権取立益		400			-		
3. 助成金		1,200			6,782		
4. その他		833	2,558	0.0	3,723	11,938	0.1
営業外費用							
1. 支払利息		38,231			122,190		
2. 社債利息		4,525			6,444		
3. 社債発行費償却		-			2,159		
4. たな卸資産除却損		12,031			63,915		
5. たな卸資産評価損		29,457			53,097		
6. 固定資産除却損		923			15,367		
7. 固定資産売却損		30			-		
8. その他		6,851	92,050	1.4	3,313	266,488	4.0
経常損失			83,533	1.3		441,550	6.7

区分	注記 番号	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)			第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)		
		金額(千円)		百分比 (%)	金額(千円)		百分比 (%)
特別利益	5						
1. 貸倒引当金戻入益		7,400	7,400	0.1	-	-	-
特別損失							
1. 減損損失		103,097	103,097	1.6	-	-	-
税引前当期純損失			179,230	2.9		441,550	6.7
法人税、住民税及び事 業税		12,330			7,491		
法人税等調整額		197,495	209,826	3.3	-	7,491	0.1
当期純損失		389,057	6.2		449,041	6.8	

製造原価明細書

区分	注記 番号	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)		第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	2,537,942	60.3	2,877,008	60.3
労務費		221,567	5.2	215,846	4.5
経費		1,451,425	34.5	1,677,141	35.2
当期総製造費用		4,210,935	100.0	4,769,996	100.0
期首仕掛品たな卸高		11,478		11,695	
合計		4,222,414		4,781,691	
期末仕掛品たな卸高		11,695		13,885	
他勘定振替高	2	23,518		88,387	
当期製品製造原価		4,187,201		4,679,418	

原価計算の方法

原価計算の方法は、個別原価計算  
を採用しております。

原価計算の方法

同左

(注) 1. 主な内訳は、次のとおりであります。

区分	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
	金額(千円)	金額(千円)
外注加工費	1,222,872	1,321,081
減価償却費	148,895	282,385

2. 他勘定振替高の内訳は、次のとおりであります。

区分	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
	金額(千円)	金額(千円)
研究開発費	-	2,134
原材料評価損	19,663	35,638
原材料除却損	3,614	50,373
その他	240	240
合計	23,518	88,387

【株主資本等変動計算書】

第31期（自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日）

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			
						別途積立金	繰越利益剰余金		
平成17年11月30日 残高 (千円)	750,850	755,850	440	756,290	16,467	30,779	855,091	902,338	2,409,478
事業年度中の変動額									
新株の発行	8,780	8,780							17,560
剰余金の配当							13,057	13,057	13,057
当期純損失							389,057	389,057	389,057
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額）									
事業年度中の変動額合計 (千円)	8,780	8,780	-	8,780	-	-	402,114	402,114	384,554
平成18年11月30日 残高 (千円)	759,630	764,630	440	765,070	16,467	30,779	452,977	500,224	2,024,924

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
平成17年11月30日 残高 (千円)	9,778	9,778	2,419,257
事業年度中の変動額			
新株の発行			17,560
剰余金の配当			13,057
当期純損失			389,057
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額）	1,483	1,483	1,483
事業年度中の変動額合計 (千円)	1,483	1,483	386,037
平成18年11月30日 残高 (千円)	8,294	8,294	2,033,219

第32期（自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日）

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			
						別途積立金	繰越利益剰余金		
平成18年11月30日 残高 (千円)	759,630	764,630	440	765,070	16,467	30,779	452,977	500,224	2,024,924
事業年度中の変動額									
剰余金の配当							52,630	52,630	52,630
当期純損失							449,041	449,041	449,041
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額）									
事業年度中の変動額合計 (千円)	-	-	-	-	-	-	501,671	501,671	501,671
平成19年11月30日 残高 (千円)	759,630	764,630	440	765,070	16,467	30,779	48,694	1,447	1,523,252

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
平成18年11月30日 残高 (千円)	8,294	8,294	2,033,219
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			52,630
当期純損失			449,041
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額（純額）	4,316	4,316	4,316
事業年度中の変動額合計 (千円)	4,316	4,316	505,987
平成19年11月30日 残高 (千円)	3,978	3,978	1,527,231



項目	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)						
4 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table data-bbox="539 459 885 560"> <tr> <td>建物</td> <td>4～50年</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td>2～11年</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td>2～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、市場販売目的のソフトウェアについては、販売可能な見込有効期間に基づく定額法、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間に基づく定額法を採用しております。</p> <p>(3) 長期前払費用 均等償却を採用しております。</p>	建物	4～50年	機械装置	2～11年	工具器具及び備品	2～15年	<p>(1) 有形固定資産 同左</p> <p>(耐用年数の変更) 当社の金型については、従来法人税法に規定する耐用年数(2年)により減価償却を行ってまいりましたが、当事業年度より使用可能予測期間による耐用年数(3年)に変更いたしました。 この変更は、製品種類の増加に伴い金型設備が増加したことに伴う金型管理の徹底を契機に稼働状況を見直した結果、当該資産の使用可能予測年数と従来の耐用年数の乖離を是正するものであります。 この変更により、当事業年度の売上原価に含まれる減価償却費が20,943千円減少し、売上総利益が20,943千円増加し、営業損失、経常損失、税引前当期純損失は、20,943千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) 長期前払費用 同左</p>
建物	4～50年							
機械装置	2～11年							
工具器具及び備品	2～15年							

項目	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
5 繰延資産の処理方法	株式交付費 支出時に全額費用として処理しております。	社債発行費 支出時に全額費用として処理しております。
6 引当金の計上基準	貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。	貸倒引当金 同左
7 リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左
8 ヘッジ会計の方法	<p>1 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>2 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利スワップ ヘッジ対象・・・借入金の利息</p> <p>3 ヘッジ方針 金利リスク低減のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。 なお、基本的にデリバティブ取引は行わないこととしており、投機的な取引は行わない方針としております。</p> <p>4 ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。</p>	<p>1 ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>2 ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>3 ヘッジ方針 同左</p> <p>4 ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
9 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

<p>第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)</p>	<p>第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)</p>
<p>(固定資産の減損に係る会計基準) 当事業年度より、固定資産の減損に係る会計基準(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日)を適用しております。 これにより税引前当期純損失が103,097千円増加しております。</p>	
<p>(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準) 当事業年度より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。 従来の「資本の部」の合計に相当する金額は2,033,219千円であります。 なお、財務諸表等規則の改正により、当事業年度における貸借対照表の純資産の部については、改正後の財務諸表等規則により作成しております。</p>	

表示方法の変更

<p>第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)</p>	<p>第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)</p>
<p>前期まで、区分掲載していた「家賃収入」(当期140千円)は、営業外収益の合計額の100分の10以下となったため、営業外収益の「その他」に含めて表示することにしました。</p>	

注記事項

(貸借対照表関係)

第31期 (平成18年11月30日)	第32期 (平成19年11月30日)																														
<p>1 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">164,996千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">200,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">364,996</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年以内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">30,840千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">138,930</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">169,770</td> </tr> </table> <p>2 関係会社項目</p> <p>関係会社に対する資産には区分掲記されたもののほか以下のものがあります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">流動資産</td> <td style="width: 33%;">売掛金</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">214,804千円</td> </tr> </table>	建物	164,996千円	土地	200,000	計	364,996	1年以内返済予定の長期借入金	30,840千円	長期借入金	138,930	合計	169,770	流動資産	売掛金	214,804千円	<p>1 担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,799,515千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">1,102,512</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,902,027</td> </tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年以内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">168,266千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">2,734,904</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,903,170</td> </tr> </table> <p>2 関係会社項目</p> <p>関係会社に対する資産には区分掲記されたもののほか以下のものがあります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">流動資産</td> <td style="width: 33%;">売掛金</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">151,802千円</td> </tr> </table>	建物	1,799,515千円	土地	1,102,512	計	2,902,027	1年以内返済予定の長期借入金	168,266千円	長期借入金	2,734,904	合計	2,903,170	流動資産	売掛金	151,802千円
建物	164,996千円																														
土地	200,000																														
計	364,996																														
1年以内返済予定の長期借入金	30,840千円																														
長期借入金	138,930																														
合計	169,770																														
流動資産	売掛金	214,804千円																													
建物	1,799,515千円																														
土地	1,102,512																														
計	2,902,027																														
1年以内返済予定の長期借入金	168,266千円																														
長期借入金	2,734,904																														
合計	2,903,170																														
流動資産	売掛金	151,802千円																													

## ( 損益計算書関係 )

第31期 ( 自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日 )	第32期 ( 自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日 )																																																						
<p>1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <p style="padding-left: 20px;">売上高 2,325,002 千円</p> <p>2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">貯蔵品</td><td style="text-align: right;">2,881千円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">9,793</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">たな卸資産除却損</td><td style="text-align: right;">8,416</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">その他</td><td style="text-align: right;">1,055</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">22,146</td></tr> </table> <p>3 販売費に属する費用のおおよその割合は30.6%、一般管理費の割合がおおよそ69.4%であります。主な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">従業員給与</td><td style="text-align: right;">220,165千円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">従業員賞与</td><td style="text-align: right;">59,863</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">研究開発費</td><td style="text-align: right;">1,480,939</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">賃借料</td><td style="text-align: right;">30,843</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">減価償却費</td><td style="text-align: right;">73,641</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">役員報酬</td><td style="text-align: right;">162,828</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">法定福利費</td><td style="text-align: right;">37,443</td></tr> </table> <p>4 研究開発費の総額 一般管理費に含まれている研究開発費の総額 1,480,939千円</p>	貯蔵品	2,881千円	たな卸資産評価損	9,793	たな卸資産除却損	8,416	その他	1,055	計	22,146	従業員給与	220,165千円	従業員賞与	59,863	研究開発費	1,480,939	賃借料	30,843	減価償却費	73,641	役員報酬	162,828	法定福利費	37,443	<p>1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <p style="padding-left: 20px;">売上高 2,560,344千円</p> <p>2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">貯蔵品</td><td style="text-align: right;">4,420千円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">たな卸資産評価損</td><td style="text-align: right;">17,458</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">たな卸資産除却損</td><td style="text-align: right;">13,541</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">研究開発費</td><td style="text-align: right;">9,377</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">立替金</td><td style="text-align: right;">10,193</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">その他</td><td style="text-align: right;">24</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">55,014</td></tr> </table> <p>3 販売費に属する費用のおおよその割合は25.4%、一般管理費の割合がおおよそ74.6%であります。主な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">従業員給与</td><td style="text-align: right;">212,824千円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">従業員賞与</td><td style="text-align: right;">58,561</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">研究開発費</td><td style="text-align: right;">1,405,830</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">賃借料</td><td style="text-align: right;">41,097</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">減価償却費</td><td style="text-align: right;">149,844</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">役員報酬</td><td style="text-align: right;">159,228</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">法定福利費</td><td style="text-align: right;">33,819</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">2,510</td></tr> </table> <p>4 研究開発費の総額 一般管理費に含まれている研究開発費の総額 1,405,830千円</p>	貯蔵品	4,420千円	たな卸資産評価損	17,458	たな卸資産除却損	13,541	研究開発費	9,377	立替金	10,193	その他	24	計	55,014	従業員給与	212,824千円	従業員賞与	58,561	研究開発費	1,405,830	賃借料	41,097	減価償却費	149,844	役員報酬	159,228	法定福利費	33,819	貸倒引当金繰入額	2,510
貯蔵品	2,881千円																																																						
たな卸資産評価損	9,793																																																						
たな卸資産除却損	8,416																																																						
その他	1,055																																																						
計	22,146																																																						
従業員給与	220,165千円																																																						
従業員賞与	59,863																																																						
研究開発費	1,480,939																																																						
賃借料	30,843																																																						
減価償却費	73,641																																																						
役員報酬	162,828																																																						
法定福利費	37,443																																																						
貯蔵品	4,420千円																																																						
たな卸資産評価損	17,458																																																						
たな卸資産除却損	13,541																																																						
研究開発費	9,377																																																						
立替金	10,193																																																						
その他	24																																																						
計	55,014																																																						
従業員給与	212,824千円																																																						
従業員賞与	58,561																																																						
研究開発費	1,405,830																																																						
賃借料	41,097																																																						
減価償却費	149,844																																																						
役員報酬	159,228																																																						
法定福利費	33,819																																																						
貸倒引当金繰入額	2,510																																																						

<p style="text-align: center;">第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)</p>	<p style="text-align: center;">第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)</p>																
<p>5 減損損失</p> <p>当事業年度において当社は、以下の資産について減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">用途</th> <th style="text-align: left;">種類</th> <th style="text-align: left;">場所</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休</td> <td>土地</td> <td>北海道芦別工場</td> <td style="text-align: right;">66,600千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(経緯)</p> <p>上記土地については、北海道芦別工場の隣接地に工場等建設予定地として取得しましたが、生産体制等経営計画の変更により現在は遊休資産となっております。</p> <p>今後の利用計画もなく地価も著しく下落しているため、減損損失を認識いたしました。</p> <p>(回収可能価額の算定方法等)</p> <p>遊休資産の回収可能価額は正味売却価額により算出しており、固定資産税評価額を基礎として評価しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">用途</th> <th style="text-align: left;">種類</th> <th style="text-align: left;">場所</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休</td> <td>建設仮勘定</td> <td>川口事業所</td> <td style="text-align: right;">36,497千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(金型)</p> <p>(経緯)</p> <p>上記金型については、川口事業所における開発プロジェクトの仕様変更により、不要となった金型の帳簿価額を減額し、当該減少額(帳簿価額全額)を減損損失として特別損失に計上しました。</p>	用途	種類	場所	金額	遊休	土地	北海道芦別工場	66,600千円	用途	種類	場所	金額	遊休	建設仮勘定	川口事業所	36,497千円	<p style="text-align: center;">5</p>
用途	種類	場所	金額														
遊休	土地	北海道芦別工場	66,600千円														
用途	種類	場所	金額														
遊休	建設仮勘定	川口事業所	36,497千円														

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成17年12月 1日 至平成18年11月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自平成18年12月 1日 至平成19年11月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)																				
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引																					
1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 20%;">取得価額相当額 (千円)</th> <th style="width: 20%;">減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th style="width: 30%;">期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>			取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	機械装置	-	-	-	工具器具及び備品	-	-	-	ソフトウェア	-	-	-	合計	-	-	-
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																		
機械装置	-	-	-																		
工具器具及び備品	-	-	-																		
ソフトウェア	-	-	-																		
合計	-	-	-																		
2 未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定の残高																					
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">- 千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">- 千円</td> </tr> <tr> <td><u>合計</u></td> <td style="text-align: right;"><u>- 千円</u></td> </tr> </table>		1年内	- 千円	1年超	- 千円	<u>合計</u>	<u>- 千円</u>														
1年内	- 千円																				
1年超	- 千円																				
<u>合計</u>	<u>- 千円</u>																				
3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失																					
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">4,096千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">3,831千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">46千円</td> </tr> </table>		支払リース料	4,096千円	減価償却費相当額	3,831千円	支払利息相当額	46千円														
支払リース料	4,096千円																				
減価償却費相当額	3,831千円																				
支払利息相当額	46千円																				
4 減価償却費相当額の算定方法																					
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。																					
5 利息相当額の算定方法																					
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。																					
(減損損失について)																					
リース資産に配分された減損損失はありません。																					

( 有価証券関係 )

前事業年度 ( 自平成17年12月1日 至平成18年11月30日 ) 及び当事業年度 ( 自平成18年12月1日 至平成19年11月30日 ) における子会社株式で時価のあるものはありません。

( 税効果会計関係 )

第31期 ( 自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日 )	第32期 ( 自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日 )																																																						
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</p> <p style="text-align: right;">( 単位 : 千円 )</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">たな卸資産評価損</td> <td style="text-align: right;">29,981</td> </tr> <tr> <td>繰越欠損金</td> <td style="text-align: right;">69,696</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">6,245</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">49,851</td> </tr> <tr> <td>減価償却費超過額</td> <td style="text-align: right;">55,080</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td style="text-align: right;">41,754</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">14,431</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">267,039</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">267,039</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">-</td> </tr> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">5,646</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,646</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,646</td> </tr> </table> </table>	たな卸資産評価損	29,981	繰越欠損金	69,696	投資有価証券評価損	6,245	研究開発費	49,851	減価償却費超過額	55,080	減損損失	41,754	その他	14,431	小計	267,039	評価性引当額	267,039	繰延税金資産計	-	その他有価証券評価差額金	5,646	繰延税金負債計	5,646	繰延税金資産の純額	5,646	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳</p> <p style="text-align: right;">( 単位 : 千円 )</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">たな卸資産評価損</td> <td style="text-align: right;">50,381</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産除却損</td> <td style="text-align: right;">19,718</td> </tr> <tr> <td>繰越欠損金</td> <td style="text-align: right;">240,434</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">6,245</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">9,466</td> </tr> <tr> <td>減価償却費超過額</td> <td style="text-align: right;">57,202</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td style="text-align: right;">41,754</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">19,201</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">444,403</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">444,403</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">-</td> </tr> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">2,708</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,708</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,708</td> </tr> </table> </table>	たな卸資産評価損	50,381	たな卸資産除却損	19,718	繰越欠損金	240,434	投資有価証券評価損	6,245	研究開発費	9,466	減価償却費超過額	57,202	減損損失	41,754	その他	19,201	小計	444,403	評価性引当額	444,403	繰延税金資産計	-	その他有価証券評価差額金	2,708	繰延税金負債計	2,708	繰延税金資産の純額	2,708
たな卸資産評価損	29,981																																																						
繰越欠損金	69,696																																																						
投資有価証券評価損	6,245																																																						
研究開発費	49,851																																																						
減価償却費超過額	55,080																																																						
減損損失	41,754																																																						
その他	14,431																																																						
小計	267,039																																																						
評価性引当額	267,039																																																						
繰延税金資産計	-																																																						
その他有価証券評価差額金	5,646																																																						
繰延税金負債計	5,646																																																						
繰延税金資産の純額	5,646																																																						
たな卸資産評価損	50,381																																																						
たな卸資産除却損	19,718																																																						
繰越欠損金	240,434																																																						
投資有価証券評価損	6,245																																																						
研究開発費	9,466																																																						
減価償却費超過額	57,202																																																						
減損損失	41,754																																																						
その他	19,201																																																						
小計	444,403																																																						
評価性引当額	444,403																																																						
繰延税金資産計	-																																																						
その他有価証券評価差額金	2,708																																																						
繰延税金負債計	2,708																																																						
繰延税金資産の純額	2,708																																																						
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異については、税引前当期純損失を計上しているため記載しておりません。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異については、税引前当期純損失を計上しているため記載しておりません。</p>																																																						

## ( 1株当たり情報 )

第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)		第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)	
1株当たり純資産額	386.32円	1株当たり純資産額	290.18円
1株当たり当期純損失金額	74.23円	1株当たり当期純損失金額	85.32円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	- 円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	- 円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
当期純損失(千円)	389,057	449,041
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純損失(千円)	389,057	449,041
期中平均株式数(千株)	5,241	5,263
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	19,763	-
(うち新株予約権(株))	(19,763)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

第31期 (自 平成17年12月 1日 至 平成18年11月30日)	第32期 (自 平成18年12月 1日 至 平成19年11月30日)
<p>当事業年度末日後、取締役会決議に基づき以下のとおり資金の借入を実行しております。</p>	
<p>1. 平成18年12月25日取締役会決議</p>	
資金使途	運転資金
借入先	三井住友銀行
金額	1,000,000千円
利率	1.095%
実行日	平成18年12月27日
借入期間	1年
弁済方法	一括返済
担保及び保証	無担保、無保証
<p>2. 平成18年12月25日取締役会決議</p>	
資金使途	運転資金
借入先	埼玉りそな銀行
金額	300,000千円
利率	0.950%
実行日	平成19年1月4日
借入期間	1年
弁済方法	一括返済
担保及び保証	無担保、無保証
<p>3. 平成19年1月30日取締役会決議</p>	
資金使途	設備資金
借入先	住友信託銀行
金額	500,000千円
利率	1.580%
実行日	平成19年1月31日
借入期間	3年
弁済方法	毎年4回の分割返済
担保及び保証	無担保、無保証

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	979,860	2,116,240	10,293	3,085,807	586,009	113,874	2,499,797
構築物	42,770	141,595	-	184,365	44,544	11,232	139,821
機械装置	163,124	107,203	2,764	267,563	95,772	33,534	171,790
車両運搬具	21,631	-	2,312	19,318	16,138	1,501	3,180
工具器具及び備品	1,731,127	480,689	49,063	2,162,753	1,586,743	319,026	576,010
土地	1,160,230	-	-	1,160,230	-	-	1,160,230
建設仮勘定	938,165	2,208,022	2,801,519	344,668	-	-	344,668
有形固定資産計	5,036,910	5,053,750	2,865,953	7,224,707	2,329,208	479,168	4,895,498
無形固定資産							
借地権	222,840	11,200	-	234,040	-	-	234,040
ソフトウェア	368,373	9,176	3,375	374,175	351,008	27,255	23,166
その他	3,971	-	-	3,971	-	-	3,971
無形固定資産計	595,185	20,376	3,375	612,186	351,008	27,255	261,177
長期前払費用	1,267	-	-	1,267	-	1,267	-
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

資産の種類	増加理由	金額(千円)
建物	新社屋建物	2,116,240
工具器具及び備品	生産用金型	364,034
建設仮勘定	新社屋建物	1,557,748
	生産用金型	441,826

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,600	4,110	-	1,600	4,110

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	519
預金	
当座預金	717,997
普通預金	672,799
小計	1,390,797
合計	1,391,317

## 受取手形

## (イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
甲府カシオ(株)	79,368
(株)オプトロンサイエンス	33,289
中島オールプリジジョン(株)	32,304
日本システム開発(株)	27,436
カシオ計算機(株)	20,034
その他	116,124
合計	308,557

## (ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成19年12月	117,536
平成20年 1月	80,577
2月	64,527
3月	45,916
4月	-
5月以降	-
合計	308,557

売掛金  
(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
松下電器産業(株)	192,314
(株)サトー	175,391
シャープ(株)	113,884
カシオ計算機(株)	111,115
Opticon Sensors Europe B.V.	110,069
その他	694,767
合計	1,397,542

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{(B)}$ 365
1,315,430	7,635,941	7,553,830	1,397,542	84.4	64.8

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

製品

品目	金額(千円)
情報機器	1,225,543
合計	1,225,543

原材料

品目	金額(千円)
電気部品	1,029,394
線材	168,822
その他	373,543
合計	1,571,760

仕掛品

品目	金額(千円)
情報機器	13,885
合計	13,885

## 貯蔵品

品目	金額(千円)
販促物貯蔵品	3,901
社員制服	2,651
合計	6,552

## 支払手形

## (イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)日立国際電気	445,890
(株)エー・ディーデバイス	66,656
伸光精線工業(株)	61,819
長野沖電気(株)	42,847
日本シイエムケイ(株)	36,678
その他	392,033
計	1,045,926
設備関係支払手形	215,232
合計	1,261,158

## (ロ) 期日別内訳

期日別	支払手形(千円)	設備関係支払手形(千円)
平成19年12月	271,138	45,130
平成20年 1月	254,387	57,025
2月	238,409	65,605
3月	281,992	47,470
4月	-	-
5月以降	-	-
合計	1,045,926	215,232

## 買掛金

相手先	金額(千円)
(株)日立国際電気	275,170
(株)エー・ディーデバイス	26,602
(株)サカイ	22,778
ローム(株)	16,701
Opticon Sensors Europe B.V.	15,390
その他	105,855
合計	462,499

## 短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)埼玉りそな銀行	1,417,000
(株)みずほ銀行	800,000
合計	2,217,000

## 1年以内返済予定長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	230,672
(株)埼玉りそな銀行	168,138
(株)足利銀行	166,656
(株)三菱UFJ信託銀行	164,000
(株)住友信託銀行	160,000
(株)三井住友銀行	149,000
(株)群馬銀行	80,568
商工組合中央金庫	68,480
中小企業金融公庫	49,286
(株)みずほ銀行	18,500
合計	1,255,300

## 社債

内訳は 連結附属明細表 社債明細表に記載しております。

長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)三井住友銀行	1,341,000
商工組合中央金庫	939,760
中小企業金融公庫	689,644
(株)三菱東京UFJ銀行	581,176
(株)埼玉りそな銀行	283,331
(株)足利銀行	263,904
(株)三菱UFJ信託銀行	254,000
(株)住友信託銀行	220,000
(株)みずほ銀行	200,000
(株)群馬銀行	44,400
合計	4,817,215

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	12月1日から11月30日まで
定時株主総会	2月中
基準日	11月30日
株券の種類	100株券、1,000株券、10,000株券
剰余金の配当の基準日	11月30日、5月31日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新株券交付手数料	無料
株券喪失登録に伴う手数料	1．喪失登録 1件につき10,500円 2．喪失登録株券 1枚につき525円
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://home.opto.co.jp">http://home.opto.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第31期）（自 平成17年12月1日 至 平成18年11月30日）平成19年2月23日関東財務局長に提出。

#### (2) 臨時報告書

平成19年3月22日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号に基づくもの（主要株主の異動）であります。

#### (3) 半期報告書

（第32期中）（自 平成18年12月1日 至 平成19年5月31日）平成19年8月29日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書

平成19年 2月22日

株式会社オプトエレクトロニクス

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 憲雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 福井 聡 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オプトエレクトロニクスの平成17年12月1日から平成18年11月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オプトエレクトロニクス及び連結子会社の平成18年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度から「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日）を適用している。

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、会社は平成18年12月27日に1,000,000千円、平成19年1月4日に300,000千円、平成19年1月31日に500,000千円を借入により調達した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成20年 2月21日

株式会社オプトエレクトロニクス

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 憲雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 尾崎 隆之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オプトエレクトロニクスの平成18年12月1日から平成19年11月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オプトエレクトロニクス及び連結子会社の平成19年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成19年 2月22日

株式会社オプトエレクトロニクス

取締役会 御中

## 新日本監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 憲雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 福井 聡 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オプトエレクトロニクスの平成17年12月1日から平成18年11月30日までの第31期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オプトエレクトロニクスの平成18年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 追記情報

財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度から「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日）を適用している。

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、会社は平成18年12月27日に1,000,000千円、平成19年1月4日に300,000千円、平成19年1月31日に500,000千円を借入により調達した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

# 独立監査人の監査報告書

平成20年 2月21日

株式会社オプトエレクトロニクス

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 憲雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 尾崎 隆之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オプトエレクトロニクスの平成18年12月1日から平成19年11月30日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オプトエレクトロニクスの平成19年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。